

新しい学士への途

平成13年度版

大学評価・学位授与機構

まえがき

1 この冊子は、大学評価・学位授与機構が行う学士の学位授与制度の解説書であり、また、平成13年度の学位授与申請の要項に当たるものです。この制度に基づき学修し誤りなく申請手続をするためには、この冊子を熟読し内容を確実に理解することが大切です。不明な点については、機構に電話照会し確認してください。(問い合わせ専用番号：03-3942-2355)

2 平成13年度の学位授与の申請手続を行うためには、この冊子とは別に『平成13年度学位授与申請書類』*が必要です。申請に当たっては必ずその申請年度の『新しい学士への途』『学位授与申請書類』を使用してください。

*請求方法については、71ページ参照。

3 平成13年度の学位授与申請から、基本基準について、第1・2申請区分の「積み上げ単位」のうち「大学の単位」が16単位以上あり、そのうち「専門・関連科目」の単位が原則として8単位以上あること。及び第3申請区分の「修得単位全体のうち「大学の単位」で、かつ、「専門・関連科目」の単位が原則として8単位以上あること。」を削除しましたので注意してください。

4 平成13年度からの主な改正点は次のとおりです。

(1) 専攻区分「心理学」の科目区分「心理学に関する実験・実習科目」の専門科目の例の「心理学測定法」「心理検査」「心理調査」を、それぞれ「心理学測定法実習」「心理検査実習」「心理調査実習」と改めたこと。

(2) 専攻区分「教育学」の科目区分「教育学・教育心理学に関する科目」の専門科目の例に、「道徳教育の研究」「特別活動の研究」を追加したこと。

(3) 専攻区分「社会科学」の科目区分「社会科学に関する基礎的・総合的な科目」を「社会科学に関する基礎的かつ総合的な科目」と改めたこと。

(4) 専攻区分「法学」の科目区分「法学に関する概論的な科目」の専門科目の例として、「法学」「法学入門」「法律学入門」「法学概論」「現代社会と法」を示したこと。

(5) 専攻区分「音楽」について、以下の点を改定したこと。

① 関連科目の科目区分「音楽に関係する科目」を、「文化史・文化論に関する科目」「哲学に関する科目」「民俗学に関する科目」「社会学に関する科目」「情報科学に関する科目」「心理学に関する科目」「演劇学に関する科目」「経済学・商学・経営学に関する科目」「生理学に関する科目」に細分化した。

② 専門科目の例について

ア 科目区分「作曲に関する科目」に「電子音楽（コンピューター音楽）」を追加した。

イ 科目区分「演奏に関する科目」の「弦楽」「管楽」を「弦楽器」「管楽器」に、「重奏」「合奏」を「室内楽」「吹奏楽」「管弦楽」に改め、「雅楽」「民族楽器」「日本の楽器（箏、太鼓等）」「電子楽器」「ジャズ」を追加した。

ウ 科目区分「音楽理論・音楽史に関する科目」に、「音楽美学」「音楽通論」「民族音楽理論」

「宗教音楽」「音声学」「楽器学」「音楽心理学」「ワールドミュージック」「ポピュラーミュージック」を追加した。

エ 科目区分「音楽教育に関する科目」に、「音楽教育心理学」「音楽療法」「リトミック」を追加した。

(6) 諸日程を改定したこと。

5 大学評価・学位授与機構は、平成12年度に従前の学位授与機構が改組・改称されたものですが、従前の機構による学位授与事業のすべてを継承しています。

凡 例

- ①～⑬…………… 章を表します。②ならば第2章です。
- p. …………… ページを表します。「p.34」ならば「34ページ」です。
- ➡…………… 参照を表します。「➡p.5」ならば、5ページの関連記述を参照してください。
- *…………… 注釈のあることを示します。注釈については見開いたページに記載しています。

目 次

①	この制度の概要	4	⑦	試験	25
1	この制度の概要	4	1	試験日・試験場	25
2	「基礎資格」「基礎資格校」及び 「基礎資格単位」	6	2	試験の実施等	25
3	学士の「専攻分野」と「専攻区分」 ..	7	⑧	審査と合否の通知	26
4	この制度に申請できない者	7	1	修得単位の審査	26
5	機構が授与する学士の学位	7	2	学修成果・試験の審査	26
②	申請区分	8	3	合否の判定	26
1	修得すべき単位数と申請可能な時期 ..	8	4	合否の通知	26
2	「積み上げ単位」と「認定専攻科」 ..	9	⑨	学位の授与	27
③	単位の修得	10	1	「学位記」の授与	27
1	2つの基準	10	2	「学位授与証明書」の発行	27
2	「基本基準」	10	3	学位の授与の取消し	27
3	「専攻基準」	11	⑩	再申請	28
④	単位修得の「基本基準」	12	1	審査の一部免除	28
1	第1申請区分に係る基本基準	12	2	再申請の申請書類等	28
2	第2申請区分に係る基本基準	13	⑪	専攻分野・専攻区分一覧	30
3	第3申請区分に係る基本基準	14	⑫	単位修得の「専攻基準」	31
⑤	「学修成果」の作成	15	⑬	各種手続	71
1	学修成果の形態	15	1	証明書の交付	71
2	「キーワード科目名」の設定	15	2	機構の刊行物の請求方法	71
3	学修成果をレポートとする場合	16	3	住所変更届	71
4	学修成果を演奏・創作とする場合 (専攻区分「音楽」)	19	4	アンケート調査等のお願ひ	71
5	学修成果を作品とする場合 (専攻区分「美術」)	20	5	照会等について	71
⑥	申請	22			
1	受付期間等	22			
2	申請書類等	22			
3	学位審査手数料	22			
4	学位授与申請の受理	24			
5	認定専攻科修了見込みでの申請	24			
6	身体に障害のある申請者への 受験上の特別措置	24			

1

この制度の概要

この章では、まず、次ページの図を参照しながら、大学評価・学位授与機構（以下「機構」という。）が行う学位授与制度のあらましを説明します。

1 この制度の概要

(1) 「基礎資格単位」の修得

この制度を利用して学士の学位を取得するためには、短期大学や高等専門学校を卒業するなどの「基礎資格」を有することが必要です。申請者がそこを卒業又は修了したことで「基礎資格」を得た学校等を「基礎資格校」、申請者が基礎資格校で修得した単位を「基礎資格単位」と呼びます。

(2) 「積み上げ単位」の修得

この制度は、基本的に、申請者が複数の学校等で修得した単位の累積を評価して学士の学位を授与するものです。申請者は、基礎資格を取得するための学修に加え、大学*の科目等履修生制度を利用した学修や、短期大学・高等専門学校に置く機構が認定した専攻科における学修で、所定の単位（「積み上げ単位」）を修得します。

* この制度ではいわゆる4年制大学をいい、短期大学を含みません。

(3) 「学修成果」の作成

申請者は、4年間以上の学修により所定の単位を修得するとともに、「学修成果」を作成します。「学修成果」は、各申請者が単位修得を通じて得た学力を、レポートや作品等の形にまとめ、機構に提出するものです。

(4) 申請

学位授与申請の受付は、年2回、4月と10月に行います。それぞれ4月期申請、10月期申請と呼びます。

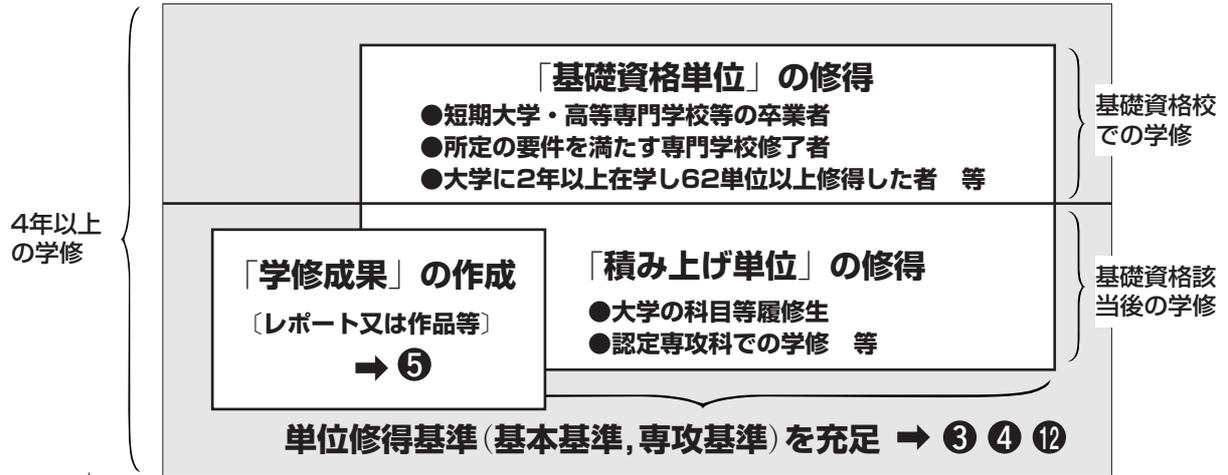
(5) 試験

4月期申請の場合は6月に、10月期申請の場合は12月に試験を行います。申請時に学修成果としてレポートを提出した者には小論文試験、芸術学の分野で作品等を学修成果とした者には面接試験が課されます。小論文試験の会場は東京都内と大阪府内の2か所に設けられ、どちらで受験するかは申請者が選択できます。ただし、面接試験は東京都内のみで実施します。

(6) 審査・学位の授与

機構は、①修得単位の審査 ②学修成果・試験の審査 により、申請者への学位授与の可否を判定します。①と②の両方が「可」と判定された場合に合格となり、学士の学位が授与されます。①は、申請者の単位修得状況が、所定の基準を満たしているかどうかを判断するものです。②は、単位履修で培われた学力を学修成果を通じて総合的に判断するとともに、学修成果に現れた学力が申請者の身に付いていることと、専攻区分に関する学士の水準の学力を申請者が有していることを試験で確認するものです。

〔学位授与申請の流れ〕



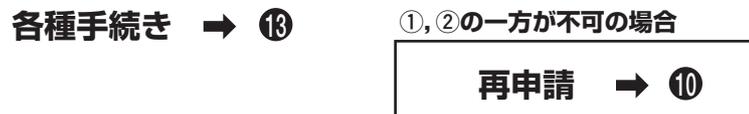
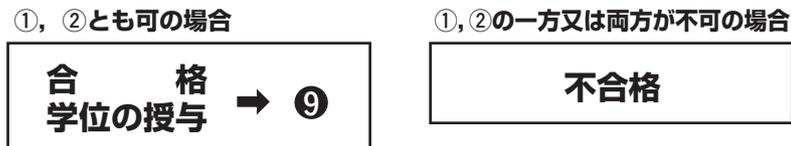
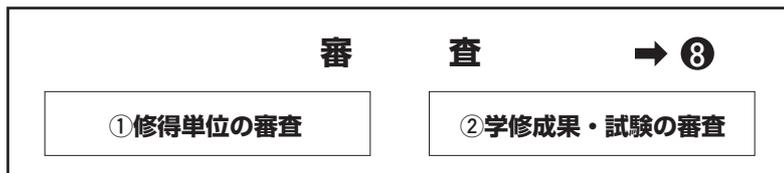
4月期 10月期

4月 10月

6月 12月

8月 2月

9月 3月



2 「基礎資格」「基礎資格校」及び「基礎資格単位」

下表に掲げるのが、この制度を利用するために必要な「基礎資格」です。そして、この制度では、申請者がそこを卒業又は修了したことで「基礎資格」を得た学校等を「基礎資格校」、申請者が基礎資格校で修得した単位を「基礎資格単位」と呼びます。

①	短期大学を卒業した者
②	高等専門学校を卒業した者
③	大学に2年以上在学し62単位以上を修得した者
④	専修学校の専門課程（以下「専門学校」という。）を修了した者のうち、学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができるもの。この資格には次の両要件を満たす者が該当します。 イ 修業年限が2年以上で、かつ、課程修了に必要な総授業時数が1,700時間以上の課程を修了した者であること ロ 学校教育法第56条に規定する（高等学校卒業等の）大学入学資格を有する者であること
⑤	旧国立工業教員養成所を卒業した者
⑥	旧国立養護教諭養成所を卒業した者
⑦	外国において学校教育における14年以上の課程を修了した者*

* 上表中⑦は、「当該国において学校教育における14年以上の課程として大学への編入学が制度上認められている等に基づき、日本の短期大学、高等専門学校、専門学校に相当すると認められる課程」を修了した者が該当します。この基礎資格により申請しようとする場合、基礎資格の確認に時間を要することがありますので、申請する前に照会してください。

3 学士の「専攻分野」と「専攻区分」

- (1) この制度で機構が授与する学士の学位には、次の「専攻分野」の名称が付記されます。

文学	教育学	神学	社会学	教養	学芸	社会科学
法学	政治学	経済学	商学	経営学	理学	薬学
看護学	保健衛生学	鍼灸学	栄養学	工学	芸術工学	商船学
農学	水産学	家政学	芸術学	体育学		

- (2) 「専攻分野」の下位区分として「専攻区分」があります。申請者は、いずれかの「専攻分野」の「専攻区分」を一つ選択し、申請することになります。⑩（⇒p.30）に一覧を掲げますが、例えば専攻分野「工学」の学士の学位を取得する場合でも、専攻区分「機械工学」で申請する場合もあれば、専攻区分「電気電子工学」で申請する場合もあります。

4 この制度に申請できない者

基礎資格を有し、所定の申請要件を満たしていても、次の場合にはこの制度に申請することはできません。

- (1) 現に大学の正規学生*として在学する者は、当該大学で学士の学位の取得（卒業）を目指していることから、この制度の対象とはなりません。なお、大学院に在学する者は申請することができますので、大学を卒業することなく大学院に入学した者（いわゆる「飛び級」）は、この制度で学士の学位を取得することができます。

*通信制の大学の学部学生や放送大学の全科履修生は、大学の正規学生に該当します。

- (2) この制度では、同時に複数の「専攻分野」「専攻区分」（⇒p.30）の学士の学位授与を申請することはできません。
- (3) 既にこの制度により学士の学位を取得した者は、既に取得した「専攻区分」の学士の学位授与を申請することはできません。同一の「専攻分野」でも「専攻区分」が異なれば申請することができます。

5 機構が授与する学士の学位

機構が授与する学士の学位は、大学卒業者に授与される学士の学位と同等です。ただし、各種の資格試験等の中には、その受験資格を「学士」ではなく「大学卒業」としている場合がありますので注意してください。（各種の資格試験等の受験資格については、当該資格試験等の実施者に照会してください。）

2

申請区分

基礎資格校の修業年限などによって、3つの申請区分が設定されています。この申請区分ごとに基礎資格該当後に修得すべき単位や申請可能な時期が異なります。したがって、申請のためには、まず、自分がどの申請区分に当てはまるかを理解していなければいけません。また、この章の2で説明されている「積み上げ単位」として申告できる単位についても確実に理解することが大切です。

1 修得すべき単位数と申請可能な時期

基礎資格校の修業年限などにより、下表のとおり、申請者が修得すべき単位数と申請可能な時期が定められています。

区分	該当する基礎資格要件	基礎資格該当後に修得すべき「積み上げ単位」数	申請可能な時期
第1申請区分*	○修業年限2年の短期大学を卒業した者 ○高等専門学校を卒業した者 ○修業年限が2年以上で、かつ、課程修了に必要な総授業時数が1,700時間以上の専門学校を修了した者（第2申請区分に該当する者を除く。）	62単位以上	基礎資格を有してから満2年が経過した後****
第2申請区分**	○修業年限3年の短期大学***を卒業した者 ○修業年限が3年以上で、かつ、課程修了に必要な総授業時数が2,550時間以上の専門学校を修了した者	31単位以上	基礎資格を有してから満1年が経過した後****
第3申請区分	○大学に2年以上在学し62単位以上を修得した者	基礎資格校の大学で修得した単位と合わせて124単位以上	基礎資格校の大学に在学した期間を含めて、満4年が経過した後

* 外国において学校教育における14年の課程を修了した者を含みます。

** 旧国立工業教員養成所を卒業した者、旧国立養護教諭養成所を卒業した者及び外国において学校教育における15年の課程を修了した者を含みます。

*** 短期大学設置基準（昭和50年文部省令第21号）第19条に規定する夜間において授業を行う学科その他授業を行う時間について教育上特別の配慮を必要とする学科に係る修業年限が3年の短期大学は、第1申請区分に該当します。

**** 機構が認定した短期大学・高等専門学校専攻科のうち一部の専攻科の在籍者については、在学中に修了見込みでの申請ができます。（▶p.24）

2 「積み上げ単位」と「認定専攻科」

申請者が基礎資格該当後に修得しなければならない単位を、この制度では「積み上げ単位」と呼びます。「積み上げ単位」として申告できる単位は、下表のとおりです。

下表の②の「認定専攻科」とは、短期大学・高等専門学校に置かれた専攻科のうち、機構が認定したものを示します。なお、現在は認定されている専攻科であっても、認定される前にその専攻科で修得した単位は申告できません。*

積み上げ単位**	①大学の単位***	科目等履修生として修得した単位****
		大学の学生として修得した単位
		大学院の学生として修得した単位
	②短期大学・高等専門学校の認定専攻科で修得した単位	
	③大学の専攻科で修得した単位	

* 機構では『大学評価・学位授与機構認定短期大学・高等専門学校専攻科一覧』を作成していますので、郵送を希望する場合は請求してください。(➡p.71)

** 学校等及び単位は、我が国の法令に基づくものです。

*** 大学通信教育（放送大学を含みます。）の単位も該当します。

**** 科目等履修生の制度は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）及び大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）に定められています。各大学の科目等履修生の受入れについては、直接当該大学に照会してください。なお、機構では『科目等履修生制度の開設大学一覧』を作成していますので、郵送を希望する場合は請求してください。(➡p.71)

3

単位の修得

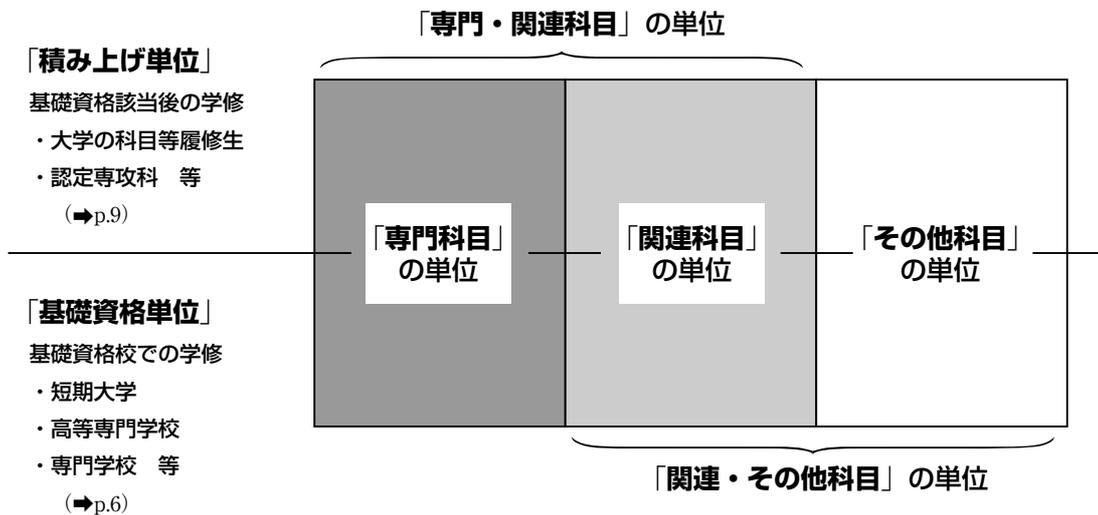
単位の修得に当たっては、専門の学芸を体系的に履修するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮して履修しなければなりません。この章では、申請者が単位修得において満たさなければならない2つの基準について説明します。

1 2つの基準

申請者は、申請区分（②→p.8）ごとに定められた「基本基準」と、専攻区分（⑩→p.30）ごとに定められた「専攻基準」を満たすように単位を修得しなければなりません。また、申請の際にはこれらの基準に基づき、申請者自身が修得単位を分類・整理し、申告しなければなりません。例えば、修業年限2年の短期大学卒業の申請者が専攻分野「文学」専攻区分「国語国文学」で申請する場合は、第1申請区分についての「基本基準」と専攻区分「国語国文学」の「専攻基準」を満たすように単位を修得し、申告することになります。

2 「基本基準」（→p.12～14）

「基本基準」は各申請区分ごとに定められた単位の修得基準です。この基準は次の図のとおり、単位を修得した時期・学校等によって「基礎資格単位」と「積み上げ単位」に分けてとらえる縦軸と、各専攻区分において求められる専門性の強さにより「専門科目」の単位、「関連科目」の単位、「その他科目」の単位に分けて考える横軸から構成されています。「専門科目」「関連科目」「その他科目」への科目の分類は、次ページに述べる「専攻基準」によります。



3 「専攻基準」(→p.31～70)

(1) 「専攻基準」の構成

- ① 「専攻基準」は各専攻区分ごとに定められた単位の修得基準です。この基準を示す基準表には、「専門科目」「関連科目」の欄があり、その下には、「専門科目の例」の欄があります。
- ② 「専門科目」「関連科目」の欄には、どのような科目(「～に関する科目」)がそれに該当するのかが示されています。この「～に関する科目」を「科目区分」と呼びます。また、複数の「科目区分」がまとまって「群」を形成している専攻区分もあります。
なお、「専門科目の例」は、「専門科目」について、それぞれの「科目区分」に該当する具体的な科目の例が示されています。
- ③ 各専攻区分においては、「専門科目」「関連科目」「群」「科目区分」ごとに所要単位数が示されています。また、特定の「科目区分」を含む単位の修得が求められていることもあります。これが修得単位の「専攻基準」です。

(2) 「専攻基準」の表による科目の分類

- ① 修得した単位の科目名や内容により、その科目がどの「科目区分」に該当するかを申請者自身が判断し、分類します。(その際、「専門科目」については「専門科目の例」を参照します。)
「専門科目」の欄にある科目区分に分類されれば、その科目は「専門科目」です。「関連科目」についても同様です。なお、「専門科目」「関連科目」の欄にある科目区分のいずれにも該当しない科目は、「その他科目」となります。この分類の結果は、「基本基準」を満たすかどうかを考える際にも反映されます。
- ② 申請に当たっては、上記のとおり申請者自身が科目を分類しますが、最終的には、修得単位の審査において、その分類が適切か、分類が適切でない科目についてはどの科目区分に該当するのかが判定されます。分類が適切でない判定された科目については、適切な科目区分に移動させた上で、修得単位の「基本基準」「専攻基準」を満たすか確認されます。
- ③ 「専門科目の例」としてあげられている科目は、あくまでも例として示されたものであり、申告する科目の名称が一字一句これと同じでなければ当該科目区分に分類されないということではありません。
- ④ この制度における科目の分類は、その科目の対象分野によるのであって、内容が高度なものであるか初歩的なものであるかにはかかりません。例えば「○○学入門」といった名称の科目であっても、内容が○○学を主としたものと判断できるものは、○○学に関する「専門科目」として扱われます。
- ⑤ この制度における科目の分類は、あくまでも「専攻基準」上の分類であり、基礎資格校や大学、認定専攻科などにおける科目の位置付けによるものではありません。したがって、例えばある大学で教養科目とされている科目が、この制度では、「専門科目」と判定されることもあります。

4

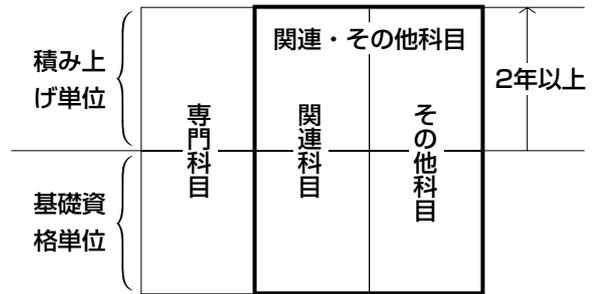
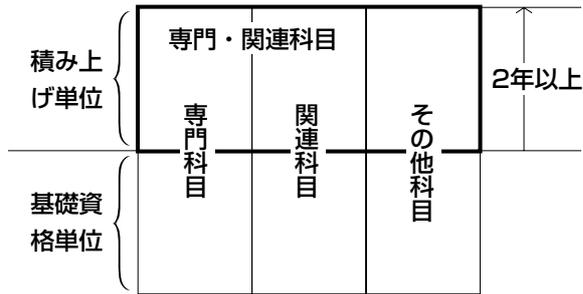
単位修得の「基本基準」

申請者は、次に掲げる申請区分ごとの「基本基準」を満たすよう単位を修得しなければなりません。

1 第1申請区分に係る基本基準（A～Eのすべてを満たす必要があります。）

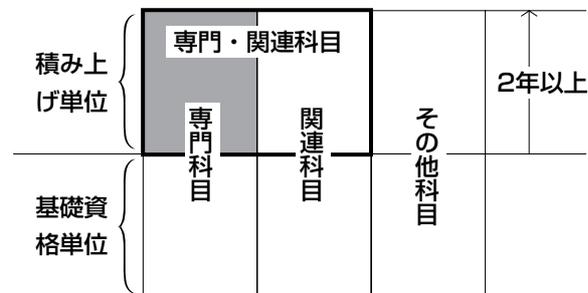
A 修得単位全体のうちに「積み上げ単位」が62単位以上あること。

D 修得単位全体のうちに「関連・その他科目」の単位が24単位以上あること。



B 「積み上げ単位」のうちに「専門・関連科目」の単位が31単位以上あり、そのうちに「専門科目」の単位が1単位以上あること。

E 修得単位全体のうちに外国語単位が1単位以上あること。



「△△語・△△文学」と表される専攻区分で申請する場合には、その区分の専攻言語△△語は、ここでいう「外国語」には含みません。例えば専攻区分「英語・英米文学」で申請する場合は、英語以外の外国語の単位を1単位以上修得していなければならないということです。

なお、申請者が外国人の場合でも日本語を「外国語」として申告することはできません。

C 修得単位全体のうちに「専門・関連科目」の単位が62単位以上あること。

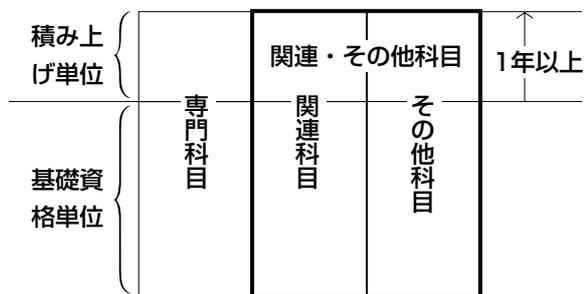


2 第2申請区分に係る基本基準 (A~Eのすべてを満たす必要があります。)

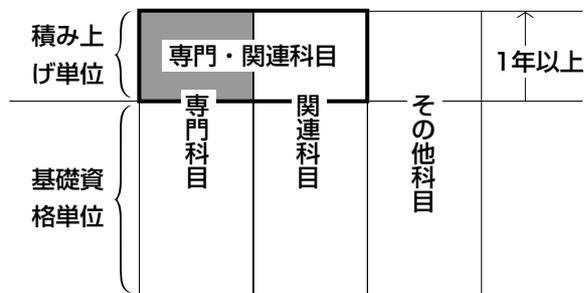
A 修得単位全体のうちに「積み上げ単位」が31単位以上あること。



D 修得単位全体のうちに「関連・その他科目」の単位が24単位以上あること。



B 「積み上げ単位」のうちに「専門・関連科目」の単位が16単位以上あり，そのうちに「専門科目」の単位が1単位以上あること。

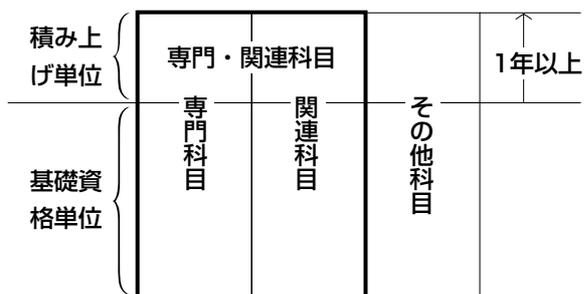


E 修得単位全体のうちに外国語単位が1単位以上あること。

「△△語・△△文学」と表される専攻区分で申請する場合には，その区分の専攻言語△△語は，ここでいう「外国語」には含みません。例えば専攻区分「英語・英米文学」で申請する場合は，英語以外の外国語の単位を1単位以上修得していなければならないということです。

なお，申請者が外国人の場合でも日本語を「外国語」として申告することはできません。

C 修得単位全体のうちに「専門・関連科目」の単位が62単位以上あること。



3 第3申請区分に係る基本基準 (A~Dのすべてを満たす必要があります。)

A 修得単位全体で124単位以上あること。

D 修得単位全体のうちに外国語単位が1単位以上あること。



「△△語・△△文学」と表される専攻区分で申請する場合には、その区分の専攻言語△△語は、ここでいう「外国語」には含みません。例えば専攻区分「英語・英米文学」で申請する場合は、英語以外の外国語の単位を1単位以上修得していなければならないということです。

なお、申請者が外国人の場合でも日本語を「外国語」として申告することはできません。

B 修得単位全体のうちに「専門・関連科目」の単位が62単位以上あること。



C 修得単位全体のうちに「関連・その他科目」の単位が24単位以上あること。



5

「学修成果」の作成

この制度に申請する際には、申請者は単に所定の単位を修得し申告するだけでなく、「学修成果」と呼ばれるレポート又は作品等を作成して提出することが求められます。「学修成果」のテーマは、専攻区分に関するものを申請者自身で設定します。

1 学修成果の形態

学修成果として提出できるものは、次のとおり専攻区分ごとに定められています。

- ① 学修成果の形態は、②の場合を除き、レポートとします。
- ② 専攻区分「音楽」「美術」では、レポートに代えて演奏・作品等を提出することができます。
- ③ 学修成果が、レポートの場合は「要旨」を作成して提出してください。また、学修成果が演奏・作品等の場合は、「説明書」を作成して提出してください。

専攻区分	学修成果の形態	補足資料等
音楽	演奏・創作又はレポート	
美術	作品又はレポート	
芸術工学	レポート	レポートに補足資料（作品の写真・ビデオテープ等も可）を添付することが可能
専攻分野「理学」の各専攻区分	レポート	レポートに補足資料を添付することが可能
その他の専攻区分	レポート	

2 「キーワード科目名」の設定

学修成果には、「キーワード科目名」を次のとおり設定しなければなりません。（具体的には、レポートの表紙、レポートの要旨又は作品の説明書に記入する。）

- ① 申請者が単位申告の際、「専門科目」に分類した科目から、学修成果の内容に最もかかわりの深いものを1～3科目選びます。
- ② 申告した「専門科目」の中に学修成果の内容を表す「キーワード科目名」として適したものがなければ、「専攻基準」の「専門科目の例」から具体的な科目名を選んでも構いません。

例：専攻区分「国語国文学」の専門科目の例（➡p.31）では、次のようになります。
「国語学に関する科目」…… 具体的な科目名ではないので、「キーワード科目名」とすることはできない。
「国語法」「国語史」など…… 具体的な科目名なので「キーワード科目名」とすることができる。

- ③ 専攻区分「科学技術研究」では、「専門科目」のうち「科学技術論に関する科目」から選ばなければなりません。
- ④ 専攻区分「検査技術科学」「臨床工学」「放射線技術科学」「理学療法学」「作業療法学」「鍼灸学」では、各専攻区分の「専門科目」のA群科目から選ばなければなりません。

3 学修成果をレポートとする場合

(1) レポートとは

この制度で提出が求められるレポートは、卒業論文などとは異なりますので、指導教員の指導の下に作成されたものである必要はありません。また、認定専攻科等において修了論文として適切と認められるものであっても、この制度で提出するレポートとしては、不適切ということもあり得ます。この制度における審査資料としてのレポートとは次のようなものとします。

- ① 専攻区分の学問分野にかかわる申請者の問い（課題）が明確に示されており、申請者なりの回答（結論）が、客観的・実証的な論考を経て述べられているものであること。客観的・実証的な論考とは、申請者の意見を独断的に述べるのではなく、文献研究や実験などに基づき筋道を立てて論を展開することをいう。
- ② 実験は必須とはされないが、先行研究についての参考文献等による学修は踏まえられていること。
- ③ 申請者自身の考察・意見と参考文献等からの引用等が明確に判別でき、引用等の出典が明示されていること。
- ④ 共著のものは認められない。なお、共同研究に基づくものであってもよいが、申請者個人の問題意識や、申請者が共同研究の中で果たした役割が明確に述べられていること。
- ⑤ 次のようなものは、この制度で求められるレポートには該当しません。

ア 小説・詩歌などの創作

イ 随想・日記

ウ 単に統計や調査の結果を記録した文章

エ 単に事実の推移を記録した文章

オ 単に文献等を要約した文章

カ 単に引用を羅列した文章

キ 学修に基づかないで、単に申請者の主張や感想を述べた文章

(2) レポートのテーマ（内容）

- ① レポートは、申請者の申請する専攻区分における学力が学士の水準に達しているかを審査する資料として提出が求められるものです。したがって、申請する専攻区分における学力を知ることができないようなものは、そのレポートのテーマ設定が不適切ということになります。例えば、専攻区分「看護学」のレポートでありながら、内容が専ら医学についてのもので看護学の視点を全く欠いているなどというのが、そのような例です。

- ② 専攻分野「教養」又は「学芸」の専攻区分「比較文化」「地域研究」「国際関係」「科学技術研究」で申請する際のレポートは、以下の点に留意して作成してください。

ア 「比較文化」…………… 特定の文化の特徴について個別的に論じるのではなく、他文化との比較を通じてその文化を相対化して論じること。

イ 「地域研究」…………… 地域を構成する特定の要素だけについて論じるのではなく、地域を構成する諸要素（政治、経済、文化、社会、地理、歴史、言語など）間の関連性について広域的、学際的に論じること。

ウ 「国際関係」…………… 国際関係の諸現象・問題と諸主体を総合的、学際的に論じること。

エ 「科学技術研究」… 個別的な科学技術を単に理工学的立場から述べるのではなく、科学技術の内的構造、その背景となる時代の思想、歴史的経過、社会的制度などとの関連において論じること。

(3) レポートの作成

- ① 様式、枚数は下表のとおりです。

	様 式	枚数 (図表等を含む)	提出枚数
ワープロを使用する場合	A 4 判 (40字×30行)	10～17枚*	5部
原稿用紙を使用する場合	A 4 判 (400字詰め)	30～50枚**	5部

* 専攻分野「理学」の各専攻区分及び「芸術工学」で、レポートに補足資料を添付する場合は「7～17枚」

** 専攻分野「理学」の各専攻区分及び「芸術工学」で、レポートに補足資料を添付する場合は「20～50枚」

- ② 日本語で作成してください。
- ③ 各ページには必ずページ番号を付してください。
- ④ 縦書き、横書きは自由です。
- ⑤ 表紙及び目次が必要です。ただし、これらの枚数は、上表の枚数には含まれません。
- ⑥ 表紙には「専攻分野」「専攻区分」「テーマ名」「キーワード科目名」「氏名」を記載してください。
(⇒p.18)
- ⑦ 専攻分野「芸術工学」で、レポートを補足する資料として作品の写真等を提出する場合の、写真等の提出形態、説明書の添付等については、専攻区分「美術」で提出する作品についての規定と同じです。(⇒p.20)

(4) レポートの要旨

学修成果としてレポートを提出する場合、以下のとおり当該レポートの要旨を作成して提出しなければなりません。

- ① 様式、枚数は下表のとおりです。

様 式	記 入 事 項	提出部数
A4判用紙1枚に1,000字程度	専攻分野、専攻区分、氏名、テーマ名、キーワード科目名、レポートの内容の要旨	5部

- ② 縦書き、横書きはレポートに合わせてください。
- ③ レポートと一緒にとじないでください。

4 学修成果を演奏・創作とする場合（専攻区分「音楽」）

- (1) 専攻区分「音楽」で学修成果を演奏とする場合は、申請者個人の演奏を収録したビデオテープを、また、学修成果を創作とする場合は、楽譜及び作品を録音したオーディオテープを提出してください。

学修成果	提出形態	作成上の注意	制作時期	提出部数
演奏	ビデオテープ	① VHS方式30分録画用テープ1本に標準スピードで収録すること。 ② 冒頭に演奏者（申請者）の上半身アップを必ず収録すること。また、演奏時の演奏者の顔が判別でき、手元等がよく見えるように収録すること。 ③ ラベルに「専攻区分」「テーマ名」「氏名」を記入すること。	申請前 6か月以内	同じテープを 5本
創作	楽譜及びオーディオテープ	① 楽譜には「テーマ名」「氏名」を記入すること。 ② 作品を演奏しカセットテープ（ノーマル30分用1本）に収録すること。ラベルに「テーマ名」「氏名」を記入すること。	同上	同じ楽譜を 5部 同じテープを 5本

- (2) 説明書

専攻区分「音楽」で学修成果を演奏・創作とする場合は、下表のとおり学修成果の説明書を作成して提出してください。

学修成果	様式	説明書の記載項目		提出部数
演奏	A4判用紙1枚に1,000字程度	専攻分野 専攻区分 氏名 キーワード科目名 テーマ名	演奏収録の時期・場所 演奏曲目 演奏楽器 選曲の理由 演奏の特徴 演奏において留意した点 ドルビー効果（使用した場合のみ）	5部
創作	同上	同上	創作の時期 創作の経緯 創作の特徴 創作において留意した点 ドルビー効果（使用した場合のみ）	5部

5 学修成果を作品とする場合（専攻区分「美術」）

(1) 専攻区分「美術」で学修成果を作品とする場合は、次のとおり提出してください。

- ① 複数の作品を提出することができます。
- ② 提出する作品は、申請者個人の学力を判定するためのものですから、申請者個人が制作したものに限り、複数の作品を提出する場合にのみ、その一部として共同制作の作品を提出することができますが、その場合、作品の説明書に担当部分を明示してください。

学修成果	提出形態	作成上の注意	制作時期	提出部数
絵画 { 洋画 日本画 彫刻(立体造形) 金工 染織 陶芸 漆芸 デザイン { グラフィック プロダクト ファッション 建築・環境 { その他 写真	写真 (カラーコピーは不可)	① 作品の全体がよく分かるように、また、作品と背景の境がはっきり分かるように撮影すること。 ② 写真は2Lサイズにプリントし、A4判の台紙(厚手のケント紙程度のもの)にはがれないようのりづけすること。 ③ 写真下方の台紙上に、「専攻区分」「氏名」「テーマ名」「作品の種類」「作品の大きさ」「制作時期」を記入すること。 ④ 写真の裏面に「専攻区分」「氏名」を記入すること。	申請前 1年以内	1作品について5枚以内を1セットとし、5セット
映像	ビデオテープ	① VHS方式30分録画用1本に標準スピードで収録すること。 ② ラベルに「専攻区分」「テーマ名」「氏名」を記入すること。	同上	同じテープを5本

(2) 説明書

専攻区分「美術」で学修成果を作品とする場合は、下表のとおり学修成果の説明書を作成し提出してください。

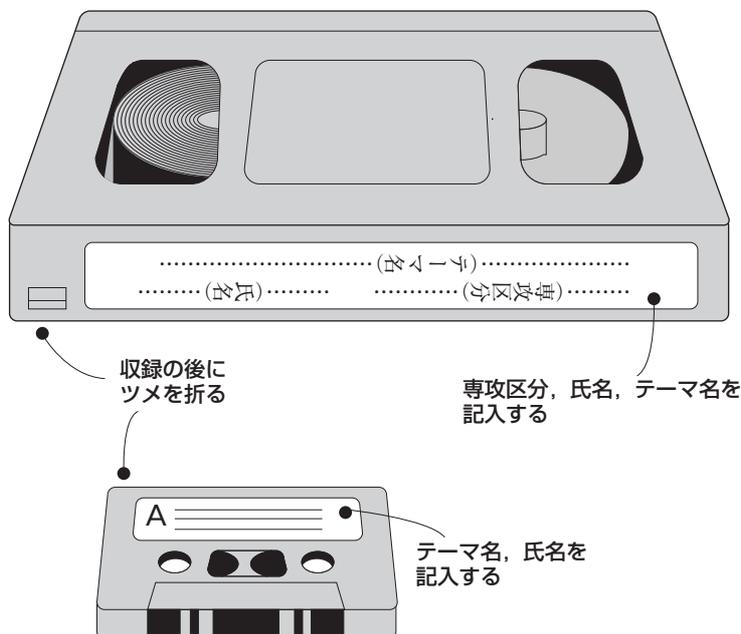
様式	記入事項		提出部数
A4判用紙1枚に1,000字程度	専攻分野 専攻区分 氏名 キーワード科目名 テーマ名	作品の種類* 制作の時期・場所 作品の大きさ(○cm×○cm及び号数) 作品の材料 制作に至った経緯 制作の特徴 制作において留意した点	作品ごとに5部

*「作品の種類」については、以下の例を参考に、作品の実際や技法がよく分かるような用語で記載してください。

洋画、日本画、石彫、木彫、彫塑、写真、イラストレーション、ポスター、ブックデザイン、タイポグラフィー、玩具、建築デザイン、ランドスケープ、野外オブジェ、インスタレーション、彫金、鍛金、鋳金、染織、指物、漆芸、陶芸、七宝、ジュエリー、ファッションデザイン、映画、アニメーション等

〔作品と説明書の態様〕

① 演奏・創作・作品をテープで提出する場合



② 作品を写真で提出する場合



テープに記入したテーマ名と完全に一致していることを確認する

③ 演奏・創作に添付する説明書

専攻分野	芸術学	氏 名：……………
専攻区分	音楽	キーワード科目名：……………

テーマ名：……………

演奏収録(創作)の時期・場所：……………

演奏曲目：……………

演奏楽器：……………

選曲の理由(創作の経緯)：……………

……………

演奏(創作)の特徴：……………

……………

演奏(創作)において留意した点：……………

……………

……………

④ 作品に添付する説明書

写真の台紙に記入したテーマ名と完全に一致していることを確認する

専攻分野	芸術学	氏 名：……………
専攻区分	美術	キーワード科目名：……………
作品の種類	日本画	……………

テーマ名：……………

制作の時期・場所：……………

作品の大きさ：……………

作品の材料：……………

制作に至った経緯：……………

……………

制作の特徴：……………

……………

……………

制作において留意した点：……………

……………

……………

6

申請

1 受付期間等

平成13年度学位授与申請の受付期間及び申請書類の提出先は下表のとおりです。申請方法は郵送（書留）による提出のみとします。

申請時期の区分	受付期間
4月期申請	平成13年4月1日（日）～4月7日（土）（当日消印有効）
10月期申請	平成13年10月1日（月）～10月7日（日）（当日消印有効）
申請書類の提出先	〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1 大学評価・学位授与機構管理部学位審査課

2 申請書類等

次ページの表に掲げた申請書類等を一括して提出してください。提出部数の指示のないものについてはすべて1部です。

- (1) 表中の申請書類等のうち、◎は申請者各自が準備するもので、○は『平成13年度学位授与申請書類』（請求方法⇒p.71）に所定の用紙がつづり込まれているものです。
- (2) 審査のため必要のあるときは、表中に掲げられた以外の書類等の提出を求めることがあります。
- (3) 表中の「③単位修得状況等申告書」「⑤学修成果」「⑥学修成果の要旨又は説明書」は、記載内容について照会することがありますので、必ず写し（コピー）を保管しておいてください。
- (4) 「④単位修得証明書」は、「③単位修得状況等申告書」の記載事項（授業科目名、単位数、授業の方法、学修の期間、修得時期）及び単位修得時の学生の種別を証明するものであることが必要です。

3 学位審査手数料

学位審査手数料は22,000円です。

- (1) 郵便局で22,000円分の普通郵便為替を組み、申請書類とともに機構に提出してください。
- (2) 郵便為替の受領証書は、機構から学位審査手数料の領収証書が送付されるまで保管しておいてください。

申請書類等		第1・第2申請区分		第3申請区分	
		短期大学・高等専門学校等卒業者	専門学校修了者		
①	学位授与申請者		○		
②	基礎資格を有することの証明書	短期大学・高等専門学校等の卒業証明書等	◎	-	-
		専修学校専門課程修了等証明書	-	○	-
		大学入学資格を証明する書類 (高等学校等の卒業証明書等)	-	◎	-
		大学に2年以上在学し62単位以上修得したことの証明書 (在学期間証明書, 単位修得証明書等)	-	-	◎
③	単位修得状況等申告書(総括表, 内訳表1, 内訳表2, 内訳表3)		○		
④	単位修得証明書 ※ 専門学校の証明書については, 授業時数が単位数に換算されたものを提出してください。		◎ (修得した機関ごとに各1部)		
⑤	学修成果(レポート又は作品等)		◎ (5部)		
⑥	学修成果の要旨又は説明書		◎ (5部)		
⑦	住民票の写し(外国人は外国人登録済証明書) ※ 申請前3か月以内に発行されたもの		◎		
⑧	受験票・写真票		○		
⑨	学位審査手数料原符・領収証書		○		
⑩	受験票送付用封筒		○		
⑪	判定結果通知用封筒		○		
⑫	学位審査手数料22,000円分の普通郵便為替		◎		

4 学位授与申請の受理

- (1) 学位授与申請を受理し、学位審査手数料を受領したときには、数日以内に「領収証書」（はがき）が送付されます。
- (2) 学位授与申請受理後には、いかなる理由があっても申請書類及び学位審査手数料等は返還しません。

5 認定専攻科修了見込みでの申請

- (1) 認定専攻科修了見込みで申請できる者
次の①～③のいずれかの認定専攻科（⇒p.9）を平成14年3月に修了する見込みの者であって、かつ修得単位に関する審査の基準を満たす見込みの者は、平成13年度10月期に申請することができます。（以下「見込申請」という。）
 - ① 修業年限2年の短期大学に置かれた修業年限2年の認定専攻科
 - ② 修業年限3年の短期大学（短期大学設置基準（昭和50年文部省令第21号）第19条に規定する短期大学を除く。）に置かれた修業年限1年の認定専攻科
 - ③ 高等専門学校に置かれた修業年限2年の認定専攻科
- (2) 「見込申請」では、平成13年度中に修得見込みの「認定専攻科の単位」と「大学の単位」を「積み上げ単位」として申告できます。申請に当たっては、一般の申請書類等（⇒p.23）のほかに、当該認定専攻科の「修了見込証明書」を提出してください。
- (3) 単位修得の報告
 - ① 修得見込みで申告した単位については、修得の成否が確定した後、速やかに単位修得証明書を提出してください。（修得見込単位のすべてを修得できなかった場合でも必ず提出してください。）
 - ② この場合の単位修得証明書の提出には、所定の封筒（受験票とともに送付します。）を使用し、複数の学校等の証明書がある場合には一括して提出してください。
 - ③ 単位修得証明書は、平成14年4月1日までに必ず提出してください。提出がない場合は、不合格となります。
- (4) 見込申請の継続
 - ① 見込申請の結果、「修得単位の審査」が「不可」と判定され不合格となった者については、平成14年4月中に「見込申請継続願」を提出し、「見込申請継続許可書」の交付を受ければ、平成14年度10月期に限り再度見込申請をすることができます。
 - ② 「見込申請継続願」は、A4判用紙に平成14年度10月期において見込申請したい旨を明記し、住所、氏名、生年月日、専攻分野、専攻区分、平成13年度10月期申請時の整理番号を記入の上、提出してください。「見込申請継続許可書」は平成14年5月中に発行します。
 - ③ 再度の見込申請に必要な書類等は、「修得単位の審査が「不可」の場合」による再申請に必要な書類（⇒p.29）に「見込申請継続許可書」を加えたものです。

6 身体に障害のある申請者への受験上の特別措置

身体に障害のある申請者で受験上の特別措置を希望する場合は、申請する前に連絡してください。なお、受験上の特別措置のために、試験場・試験日等を別に設定することがあります。

7

試 験

試験は、提出された学修成果の内容が申請者の学力として定着しているか、また、専攻に係る学士の水準の学力を有しているかをみるために行います。学修成果としてレポートを提出した者にはレポートの内容に関連する事項について小論文の形で課されます。ただし、専攻区分「音楽」「美術」で、レポート以外の学修成果を提出した者については、小論文試験に代えて面接試験を行います。

1 試験日・試験場

平成13年度の試験日・試験場は、下表のとおりです。

申請時期	試験の区分	試験場		試験日
4月期	小論文試験 (学修成果としてレポートを提出した者)	東京	大阪	平成13年6月17日(日)
	面接試験 (専攻区分「音楽」「美術」でレポート以外の学修成果を提出した者)	東京		
10月期	小論文試験 (学修成果としてレポートを提出した者)	東京	大阪	平成13年12月16日(日)
	面接試験 (専攻区分「音楽」「美術」でレポート以外の学修成果を提出した者)	東京		平成13年12月8日(土)又は 平成13年12月9日(日)のうち 機構が指定する日

2 試験の実施等

- (1) 小論文試験は90分、面接試験は30分以内で実施します。
- (2) 試験会場、試験実施時間及び10月期の面接試験日については、受験票で通知します。
- (3) 受験票は、受験者心得とともに試験日の10日前までに送付します。その日までに届かない場合は、機構に電話で連絡してください。
- (4) 専攻区分「美術」で面接試験を受ける者は、試験当日、「申請時に写真を提出した作品の実物」「ポートフォリオ」「制作ノート」を持参してください。ただし、作品の実物が持参に適さない形状である場合は、それに代わる作品の実物(学位授与の申請前1年以内に制作された作品に限る。)を持参してください。
なお、「ポートフォリオ」「制作ノート」は制作順に整理してください。

審査と合否の通知

「**修得単位の審査**」「**学修成果・試験の審査**」についてそれぞれ可否の判定を行います。両方が「可」と判定された場合に、「合格」となります。

1 修得単位の審査

申請者の単位修得状況が「基本基準」「専攻基準」の両方を満たしていれば「可」と判定されます。

なお、「可」と判定された場合であっても、申請者の科目分類がすべて適当と認められたとは限りません。修得単位の審査では、審査基準を必要な限りにおいて満たしていれば「可」となります。

2 学修成果・試験の審査

学修成果の審査と、試験の審査は合わせて判定されます。学修成果の審査は、提出された学修成果のテーマ設定が専攻に関するものとして適切か、その内容が学士の水準に達しているかについて行われます。

試験は、提出された学修成果の内容に関連する事項について、原則として小論文の形で課されます。試験の審査は、提出された学修成果が申請者の学力として定着しているか、また、その専攻について学士の水準の学力を有しているかについて行われます。

3 合否の判定

合否の判定は、「修得単位の審査」及び「学修成果・試験の審査」の結果に基づいて、総合的に行われます。両方が「可」と判定された場合に「合格」となり、いずれか一方又は両方が「不可」と判定された場合は「不合格」となります。

4 合否の通知

- (1) 判定結果は、平成13年度4月期の申請については平成13年9月下旬までに、平成13年度10月期の申請については平成14年3月下旬までに通知します。ただし、10月期の見込申請者については、見込単位に関する単位修得証明書が提出されてから修得単位の確認を行うので、この限りではありません。
- (2) 不合格の場合は、次のとおり不合格となった理由を併せて通知します。
 - ① 次表の「イ」又は「ロ」の理由で不合格となった場合は、再申請（→p.28）する際には学修成果の書き直し等が必要となります。
 - ② 次表の「イ」は、学修成果のテーマ（内容）が「専攻区分」に関するものとして適切でないことを指します。

判定結果	「不可」の理由
修得単位の審査が「不可」	〇〇〇〇の単位について「〇〇〇に関する科目」が〇単位不足
学修成果・試験の審査が「不可」	イ 学修成果のテーマの設定が適切でない
	ロ 学修成果の内容が水準に達していない
	ハ 試験の結果、学修成果の内容が学力として定着しているとは認められない
	ニ 試験を受けていない

9

学位の授与

1 「学位記」の授与

合格者には、合格通知後1か月程度で「学位記」が授与されます。学位記は学位の授与についての証書です。

2 「学位授与証明書」の発行

学士の学位の授与証明が必要な場合は、「学位授与証明書」の交付請求をしてください。(➡p.71)

3 学位の授与の取消し

学士の学位を授与された者が、不正な方法により学士の学位の授与を受けた事実が判明したときは、学士の学位の授与を取り消します。取り消された者は、学位記を返還することとなります。

10

再申請

審査に不合格となった場合でも、不合格通知で指摘された点について学修を積み、何度でも学位授与申請することができます。

1 審査の一部免除

- (1) 不合格者で、「修得単位の審査」「学修成果・試験の審査」のいずれかが「可」と判定された者が、当該判定通知日から3年以内に申請した場合（以下「再申請」という。）は、「可」と判定された審査は免除します。
- (2) 見込申請（➡p.24）の結果、不合格となった場合についても(1)と同様です。
- (3) 「修得単位の審査」「学修成果・試験の審査」が両方「不可」であった場合、審査の一部免除はされません。なお、申請は新規と同様の方法ですることになります。
- (4) 改組前の「学位授与機構」による審査結果の判定通知は、「大学評価・学位授与機構」によるものとして扱われます。

2 再申請の申請書類等

次ページの表に掲げた申請書類等を一括して提出してください。提出部数の指示のないものについてはすべて1部です。

表中の申請書類等のうち、◎は申請者各自が準備するもので、○は『平成13年度学位授与申請書類』（請求方法➡p.71）に所定の用紙がつづり込まれているものです。

再申請の場合の申請書類等		前 申 請 の 結 果	
		修得単位の審査が「不可」の場合	学修成果・試験の審査が「不可」の場合
①	判定結果証明書（前回の判定結果通知に添付されていたもの）	○	○
②	学位授与申請書	○	○
③	単位修得状況等申告書（総括表，内訳表1，内訳表2，内訳表3）	○	-
④	単位修得証明書 ※ 専門学校の証明書については，授業時数が単位数に換算されたものを提出してください。	◎ (修得した機関ごとに各1部)	-
⑤	学修成果（レポート又は作品等） ※ 不可理由が「イ」又は「ロ」の場合，学修成果の書き直し等が必要です。（➡p.27）	-	◎ (5部)
⑥	学修成果の要旨又は説明書	-	◎ (5部)
⑦	住民票の写し（外国人は外国人登録済証明書） ※ 申請前3か月以内に発行されたもの	◎	◎
⑧	受験票・写真票	-	○
⑨	学位審査手数料原符・領収証書	○	○
⑩	受験票送付用封筒	-	○
⑪	判定結果通知用封筒	○	○
⑫	学位審査手数料22,000円分の普通郵便為替	◎	◎

11

専攻分野・専攻区分一覧

この制度で申請できる「専攻分野」「専攻区分」及び単位修得の「専攻基準」の掲載ページは下表のとおりです。

なお、整理番号15～18の専攻区分で申請する場合の専攻分野は、「教養」又は「学芸」のいずれかを申請者が選択することになります。

整理番号	専攻分野	専攻区分	掲載ページ
1	文学	国語国文学	31
2	文学	英語・英米文学	31
3	文学	独語・独文学	32
4	文学	仏語・仏文学	32
5	文学	中国語・中国文学	33
6	文学	ロシア語・ロシア文学	33
7	文学	歴史学	34
8	文学	哲学	34
9	文学	心理学	35
10	文学	宗教学	36
11	教育学	教育学	37
12	神学	神学	38
13	社会学	社会学	39
14	社会学	社会福祉学	39
15	「教養」 又は 「学芸」 を選択すること	比較文化	40
16		地域研究	40
17		国際関係	41
18		科学技術研究	41
19	社会科学	社会科学	42
20	法学	法学	43
21	政治学	政治学	43
22	経済学	経済学	44
23	商学	商学	44
24	経営学	経営学	45
25	理学	数学・情報系	46
26	理学	物理学・地学系	46
27	理学	化学系	47

整理番号	専攻分野	専攻区分	掲載ページ
28	理学	生物学系	47
29	理学	総合理学	48
30	薬学	薬学	48
31	看護学	看護学	49
32	保健衛生学	検査技術科学	50
33	保健衛生学	臨床工学	51
34	保健衛生学	放射線技術科学	52
35	保健衛生学	理学療法学	53
36	保健衛生学	作業療法学	54
37	鍼灸学	鍼灸学	55
38	栄養学	栄養学	56
39	工学	機械工学	57
40	工学	電気電子工学	58
41	工学	情報工学	59
42	工学	応用化学	60
43	工学	生物工学	61
44	工学	材料工学	62
45	工学	土木工学	63
46	工学	建築学	64
47	芸術工学	芸術工学	65
48	農学	農学	66
49	水産学	水産学	67
50	家政学	家政学	68
51	芸術学	音楽	69
52	芸術学	美術	69
53	体育学	体育学	70

12

単位修得の「専攻基準」

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野				
1	国語国文学	<p>専門科目（40単位以上、演習科目を含むこと）</p> <table border="1"> <tr> <td>○国語国文学に関する基礎的・概論的な科目 ○国語学に関する科目 ○国文学に関する科目</td> <td>左の3区分にわたること</td> </tr> </table> <p>関連科目（4単位以上）</p> <table border="1"> <tr> <td>◇思想・哲学に関する科目 ◇歴史・文化に関する科目 ◇社会・風土に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇外国文学に関する科目 ◇比較文学に関する科目 ◇言語学に関する科目 ◇国語教育に関する科目 ◇日本語教育に関する科目</td> <td></td> </tr> </table>	○国語国文学に関する基礎的・概論的な科目 ○国語学に関する科目 ○国文学に関する科目	左の3区分にわたること	◇思想・哲学に関する科目 ◇歴史・文化に関する科目 ◇社会・風土に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇外国文学に関する科目 ◇比較文学に関する科目 ◇言語学に関する科目 ◇国語教育に関する科目 ◇日本語教育に関する科目		文学
○国語国文学に関する基礎的・概論的な科目 ○国語学に関する科目 ○国文学に関する科目	左の3区分にわたること						
◇思想・哲学に関する科目 ◇歴史・文化に関する科目 ◇社会・風土に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇外国文学に関する科目 ◇比較文学に関する科目 ◇言語学に関する科目 ◇国語教育に関する科目 ◇日本語教育に関する科目							

■専門科目の例■

- 国語国文学に関する基礎的・概論的な科目
国語学概論、国文学（日本文学）概論、国文学史（日本文学史）など
- 国語学に関する科目
国語法、国語史、国語表現法、国語学演習、国語学特殊講義など
- 国文学に関する科目
国文学（日本文学）講義講読、国文学（日本文学）演習、国文学（日本文学）特殊講義、漢文学演習、漢文学特殊講義など

2	英語・英米文学	<p>専門科目（40単位以上、演習科目12単位以上を含むこと）</p> <table border="1"> <tr> <td>○英語学に関する科目 ○英文学に関する科目 ○米文学に関する科目 ○英語科目</td> <td>左の区分のうちから「英語学に関する科目」の区分を含み3区分以上にわたること</td> </tr> </table> <p>関連科目（4単位以上）</p> <table border="1"> <tr> <td>◇英米以外の西洋文学に関する科目 ◇日本文学に関する科目 ◇西洋の歴史・思想に関する概論的な科目 ◇英語以外の外国語に関する科目 ◇英語教育に関する科目 ◇日本語教育に関する科目 ◇比較文化に関する科目 ◇地域研究に関する科目 ◇国際関係に関する科目</td> <td></td> </tr> </table>	○英語学に関する科目 ○英文学に関する科目 ○米文学に関する科目 ○英語科目	左の区分のうちから「英語学に関する科目」の区分を含み3区分以上にわたること	◇英米以外の西洋文学に関する科目 ◇日本文学に関する科目 ◇西洋の歴史・思想に関する概論的な科目 ◇英語以外の外国語に関する科目 ◇英語教育に関する科目 ◇日本語教育に関する科目 ◇比較文化に関する科目 ◇地域研究に関する科目 ◇国際関係に関する科目		文学
○英語学に関する科目 ○英文学に関する科目 ○米文学に関する科目 ○英語科目	左の区分のうちから「英語学に関する科目」の区分を含み3区分以上にわたること						
◇英米以外の西洋文学に関する科目 ◇日本文学に関する科目 ◇西洋の歴史・思想に関する概論的な科目 ◇英語以外の外国語に関する科目 ◇英語教育に関する科目 ◇日本語教育に関する科目 ◇比較文化に関する科目 ◇地域研究に関する科目 ◇国際関係に関する科目							

■専門科目の例■

- 英語学に関する科目
英語学概論、英語史、現代英語学、英文法論、文体論、英語音声学、語用論、談話分析、英語学演習、言語学、社会言語学など
- 英文学に関する科目
英文学概論、英文学史、イギリス小説論、イギリス詩論、イギリス演劇論、イギリス批評論、中世英文学、エリザベス朝時代の文学、文学としての聖書、イギリス児童文学、英文学演習など
- 米文学に関する科目
米文学概論、米文学史、アメリカ小説論、アメリカ詩論、アメリカ演劇論、アメリカ批評論、アメリカ児童文学、米文学演習など
- 英語科目
英語、実用英語、英語会話、英語作文、英文法など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

3	独語・独文学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="367 224 1356 291">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="367 291 981 436"> <input type="radio"/>ドイツ語科目 <input type="radio"/>ドイツ語学に関する科目 <input type="radio"/>ドイツ文学に関する科目 <input type="radio"/>ドイツ語圏地域研究に関する科目 </td> <td data-bbox="981 291 1356 436">左の区分のうちから「ドイツ語科目」の区分を含み3区分以上にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="367 436 1356 504">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="367 504 981 719"> <input type="checkbox"/>ドイツ語圏以外の西洋文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/>日本文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/>ドイツ語以外の外国語に関する科目 <input type="checkbox"/>言語学・言語教育に関する科目 <input type="checkbox"/>比較文化に関する科目 <input type="checkbox"/>ドイツ語圏以外の地域研究に関する科目 <input type="checkbox"/>国際関係に関する科目 </td> <td data-bbox="981 504 1356 719"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		<input type="radio"/> ドイツ語科目 <input type="radio"/> ドイツ語学に関する科目 <input type="radio"/> ドイツ文学に関する科目 <input type="radio"/> ドイツ語圏地域研究に関する科目	左の区分のうちから「ドイツ語科目」の区分を含み3区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）		<input type="checkbox"/> ドイツ語圏以外の西洋文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/> 日本文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/> ドイツ語以外の外国語に関する科目 <input type="checkbox"/> 言語学・言語教育に関する科目 <input type="checkbox"/> 比較文化に関する科目 <input type="checkbox"/> ドイツ語圏以外の地域研究に関する科目 <input type="checkbox"/> 国際関係に関する科目		文学
専門科目（40単位以上）											
<input type="radio"/> ドイツ語科目 <input type="radio"/> ドイツ語学に関する科目 <input type="radio"/> ドイツ文学に関する科目 <input type="radio"/> ドイツ語圏地域研究に関する科目	左の区分のうちから「ドイツ語科目」の区分を含み3区分以上にわたること										
関連科目（4単位以上）											
<input type="checkbox"/> ドイツ語圏以外の西洋文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/> 日本文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/> ドイツ語以外の外国語に関する科目 <input type="checkbox"/> 言語学・言語教育に関する科目 <input type="checkbox"/> 比較文化に関する科目 <input type="checkbox"/> ドイツ語圏以外の地域研究に関する科目 <input type="checkbox"/> 国際関係に関する科目											

- 専門科目の例■ ※「ドイツ」は、広く「ドイツ語圏」を意味する。
- ドイツ語科目
ドイツ語，ドイツ語会話，ドイツ語作文など
 - ドイツ語学に関する科目
ドイツ語学概論，ドイツ語史，中世ドイツ語，ドイツ語学演習，ドイツ語学特殊講義，ドイツ語音韻論，ドイツ語教授法など
 - ドイツ文学に関する科目
ドイツ文学概論，ドイツ文学史，ドイツ文学演習，ドイツ文学特殊講義，ドイツ詩論，ドイツ演劇論，オーストリア文学，スイスの文学など
 - ドイツ語圏地域研究に関する科目
ドイツの文化，ドイツの芸術，ドイツの思想，ドイツの哲学，ドイツの歴史，ドイツの政治，ドイツの社会，ドイツの事情など

4	仏語・仏文学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="367 1131 1356 1198">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="367 1198 981 1344"> <input type="radio"/>フランス語科目 <input type="radio"/>フランス語学に関する科目 <input type="radio"/>フランス文学に関する科目 <input type="radio"/>フランス文化に関する科目 </td> <td data-bbox="981 1198 1356 1344">左の区分のうちから「フランス語科目」の区分を含み3区分以上にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="367 1344 1356 1411">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="367 1411 981 1626"> <input type="checkbox"/>フランス以外の西洋文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/>日本文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/>フランス語以外の外国語に関する科目 <input type="checkbox"/>言語学・言語教育に関する科目 <input type="checkbox"/>比較文化に関する科目 <input type="checkbox"/>フランス以外の地域研究に関する科目 <input type="checkbox"/>国際関係に関する科目 </td> <td data-bbox="981 1411 1356 1626"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		<input type="radio"/> フランス語科目 <input type="radio"/> フランス語学に関する科目 <input type="radio"/> フランス文学に関する科目 <input type="radio"/> フランス文化に関する科目	左の区分のうちから「フランス語科目」の区分を含み3区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）		<input type="checkbox"/> フランス以外の西洋文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/> 日本文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/> フランス語以外の外国語に関する科目 <input type="checkbox"/> 言語学・言語教育に関する科目 <input type="checkbox"/> 比較文化に関する科目 <input type="checkbox"/> フランス以外の地域研究に関する科目 <input type="checkbox"/> 国際関係に関する科目		文学
専門科目（40単位以上）											
<input type="radio"/> フランス語科目 <input type="radio"/> フランス語学に関する科目 <input type="radio"/> フランス文学に関する科目 <input type="radio"/> フランス文化に関する科目	左の区分のうちから「フランス語科目」の区分を含み3区分以上にわたること										
関連科目（4単位以上）											
<input type="checkbox"/> フランス以外の西洋文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/> 日本文学・文化に関する科目 <input type="checkbox"/> フランス語以外の外国語に関する科目 <input type="checkbox"/> 言語学・言語教育に関する科目 <input type="checkbox"/> 比較文化に関する科目 <input type="checkbox"/> フランス以外の地域研究に関する科目 <input type="checkbox"/> 国際関係に関する科目											

- 専門科目の例■
- フランス語科目
フランス語，フランス語会話，フランス語作文など
 - フランス語学に関する科目
フランス語学概論，フランス語学演習，フランス語史，中世フランス語，フランス語音声学，フランス語教授法など
 - フランス文学に関する科目
フランス文学概論，フランス文学演習，フランス文学特殊研究，フランス文学史など
 - フランス文化に関する科目
フランスの文化，フランスの思想，フランス史，フランスの政治，フランスの美術，フランス事情，フランス語圏地域研究など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

5	中国語・中国文学	専門科目（40単位以上）	文学	
		<input type="radio"/> 中国語科目 <input type="radio"/> 中国語学に関する科目 <input type="radio"/> 中国文学に関する科目 <input type="radio"/> 中国思想・文化に関する科目		左の区分のうちから「中国語科目」の区分を含み3区分以上にわたること
		関連科目（4単位以上）		

- ◇中国語圏以外のアジアの文学・文化に関する科目
- ◇日本文学・文化に関する科目
- ◇中国語以外の外国語に関する科目
- ◇言語学・言語教育に関する科目
- ◇比較文化に関する科目
- ◇中国語圏以外の地域研究に関する科目
- ◇国際関係に関する科目

■専門科目の例■

- 中国語科目
中国語，中国語会話，中国語作文など
- 中国語学に関する科目
中国語学概論，中国語学演習，中国語史，中国語学特殊講義，中国語音声・音韻論，中国語科教育法など
- 中国文学に関する科目
中国文学概論，中国文学演習，中国文学講読，中国文学史，中国文学特殊講義など
- 中国思想・文化に関する科目
中国思想，中国哲学，中国の文化，中国の歴史，中国事情，中国の政治，中国の社会，中国の芸術，中国の宗教，中国語圏地域研究など

6	ロシア語・ロシア文学	専門科目（40単位以上）	文学	
		【A群】 （36単位以上） <input type="radio"/> ロシア語科目 <input type="radio"/> ロシア語学に関する科目 <input type="radio"/> ロシア文学に関する科目 <input type="radio"/> ロシア文化に関する科目 【B群】 <input type="radio"/> ロシア以外のスラヴ圏の語（学）・文学・文化に関する科目		左のA群の区分のうちから「ロシア語科目」の区分を含み3区分以上にわたること
		関連科目（4単位以上）		

- ◇スラヴ圏以外の西洋文学・文化に関する科目
- ◇日本文学・文化に関する科目
- ◇スラヴ語以外の外国語に関する科目
- ◇言語学・言語教育に関する科目
- ◇比較文化に関する科目
- ◇スラヴ圏以外の地域研究に関する科目
- ◇国際関係に関する科目

■専門科目の例■

- ロシア語科目
ロシア語，ロシア語会話，ロシア語作文など
- ロシア語学に関する科目
ロシア語学概論，ロシア語学演習，ロシア語学特殊講義，ロシア語史，古代教会スラヴ語，ロシア語音声学，ロシア語教授法など
- ロシア文学に関する科目
ロシア文学概論，ロシア文学史，ロシア文学演習，ロシア文学特殊講義など
- ロシア文化に関する科目
ロシアの文化，ロシア史，ロシアの芸術，ロシアの社会，ロシアの思想，ロシアの政治，ロシア事情，ロシアの地域研究など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

7	歴史学	専門科目（40単位以上）	文学	
		<input type="radio"/> 歴史学に関する基礎的な科目 <input type="radio"/> 日本史に関する科目 <input type="radio"/> 東洋史に関する科目 <input type="radio"/> 西洋史に関する科目 <input type="radio"/> 考古学に関する科目		左の区分のうちから4区分以上にわたること
		関連科目（4単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 地理学に関する科目 <input type="checkbox"/> 思想・哲学に関する科目 <input type="checkbox"/> 政治・経済・法律・社会に関する科目 <input type="checkbox"/> 各国文学史・文学概論に関する科目 <input type="checkbox"/> 比較文化に関する科目 <input type="checkbox"/> 地域研究に関する科目 <input type="checkbox"/> 国際関係論に関する科目 <input type="checkbox"/> 文化人類学に関する科目		

■専門科目の例■

- 歴史学に関する基礎的な科目
史学概論，日本史概説・日本史，東洋史概説・東洋史，西洋史概説・西洋史，考古学概説など
- 日本史に関する科目
日本古代史，日本中世史，日本近世史，日本近代史，日本現代史，日本史演習，日本古文書学など
※各分野史（政治・法制史，経済史，社会史，文化史，思想史，宗教史，美術史等）を含む。
- 東洋史に関する科目
中国史，東北アジア史，南アジア史，中央アジア史，西アジア史，東洋史演習，東洋史料講読など
※各分野史（政治・法制史，経済史，社会史，文化史，思想史，宗教史，美術史等）を含む。
- 西洋史に関する科目
西洋古代史，西洋中世史，イギリス史，フランス史，ドイツ史，北欧史，南欧史，東欧史，北アメリカ史，ラテンアメリカ史，西洋史演習，西洋史外書講読など
※各分野史（政治・法制史，経済史，社会史，文化史，思想史，宗教史，美術史等）を含む。
- 考古学に関する科目
考古学特講，考古学演習，考古学実習など

8	哲学	専門科目（40単位以上，演習科目4単位以上を含むこと）	文学	
		<input type="radio"/> 哲学に関する基礎的な科目 <input type="radio"/> 哲学の理論に関する科目 <input type="radio"/> 哲学の歴史に関する科目		左の3区分にわたること
		関連科目（8単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 比較思想に関する科目 <input type="checkbox"/> 文化・文明論に関する科目 <input type="checkbox"/> 宗教に関する科目 <input type="checkbox"/> 科学技術論に関する科目 <input type="checkbox"/> 社会学に関する科目 <input type="checkbox"/> 心理学に関する科目 <input type="checkbox"/> 教育学に関する科目		

■専門科目の例■

- 哲学に関する基礎的な科目
哲学，倫理学，論理学など
- 哲学の理論に関する科目
哲学概論，倫理学概論，論理学概論，認識論，形而上学，自然哲学，歴史哲学，宗教哲学，美学・芸術学，科学哲学，社会哲学，教育哲学，言語哲学，哲学の人間学，現代思想など
- 哲学の歴史に関する科目
哲学史，倫理学史，論理学史，美学史，思想史など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

9	心理学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="392 232 1339 293">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 293 983 555"> 【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○心理学に関する基礎的・概論的な科目 ○知覚・学習心理学に関する科目 ○教育・発達心理学に関する科目 ○人格・臨床心理学に関する科目 ○社会・集団心理学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（2単位以上） ○心理学に関する実験・実習科目 </td> <td data-bbox="983 293 1339 555">左のA群の区分のうちから「心理学に関する基礎的・概論的な科目」の区分を含み4区分以上にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="392 555 1339 616">関連科目（8単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 616 983 864"> ◇情報科学に関する科目 ◇比較文化に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇生態学に関する科目 ◇医学に関する科目 ◇哲学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇言語学に関する科目 </td> <td data-bbox="983 616 1339 864"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○心理学に関する基礎的・概論的な科目 ○知覚・学習心理学に関する科目 ○教育・発達心理学に関する科目 ○人格・臨床心理学に関する科目 ○社会・集団心理学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（2単位以上） ○心理学に関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから「心理学に関する基礎的・概論的な科目」の区分を含み4区分以上にわたること	関連科目（8単位以上）		◇情報科学に関する科目 ◇比較文化に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇生態学に関する科目 ◇医学に関する科目 ◇哲学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇言語学に関する科目		文学
専門科目（40単位以上）											
【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○心理学に関する基礎的・概論的な科目 ○知覚・学習心理学に関する科目 ○教育・発達心理学に関する科目 ○人格・臨床心理学に関する科目 ○社会・集団心理学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（2単位以上） ○心理学に関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから「心理学に関する基礎的・概論的な科目」の区分を含み4区分以上にわたること										
関連科目（8単位以上）											
◇情報科学に関する科目 ◇比較文化に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇生態学に関する科目 ◇医学に関する科目 ◇哲学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇言語学に関する科目											

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

- 心理学に関する基礎的・概論的な科目
心理学，心理学概論，心理学基礎論，教育心理学，行動科学，人間行動学，心理学研究法，心理学演習，行動科学研究法，実験心理学概論，心理統計調査法，心理学史，実験計画法など
 - 知覚・学習心理学に関する科目
知覚心理学，学習心理学，視覚心理学，認知心理学，思考心理学，記憶心理学，言語心理学，動物心理学，実験心理学，生理心理学，色彩心理学，感覚情報処理過程，人間工学など
 - 教育・発達心理学に関する科目
発達心理学，生涯発達心理学，児童心理学，青年心理学，障害児心理学，教授心理学，教育評価，教授法，学級・教師の心理，親子関係の心理，乳児研究法，知覚発達，言語発達など
 - 人格・臨床心理学に関する科目
人格心理学，性格心理学，臨床心理学，犯罪心理学，心理療法，カウンセリング，相談心理学，健康心理学，行動療法など
 - 社会・集団心理学に関する科目
社会心理学，グループ・ダイナミックス（集団心理学），組織心理学，産業心理学，経営心理学，コミュニティ心理学，文化心理学，環境心理学，家族心理学，コミュニケーション行動，対人認知論，人間関係論，造形心理学など
- 【B群（実験・実習科目）】**
- 心理学に関する実験・実習科目
心理学基礎実験，心理学実習，行動科学実験，心理学特殊実験，教育心理学実験，行動科学実習，教育心理学実習，心理学測定法実習，心理検査実習，心理統計実習，観察実習，心理調査実習など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野								
10	宗教学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="387 230 1361 293">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 293 983 584"> 【A群（宗教学一般に関する科目）】（8単位以上） ○宗教思想に関する科目 ○宗教史に関する科目 ○宗教実践に関する科目 【B群（個別宗教に関する科目）】（8単位以上） ○神道に関する科目 ○仏教に関する科目 ○キリスト教に関する科目 ○他の宗教に関する科目 </td> <td data-bbox="983 293 1361 584"> 左のA群の区分のうちから2区分以上にわたること 左のB群の区分のうちから2区分以上にわたること </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="387 584 1361 647">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 647 983 902"> ◇哲学・倫理学に関する科目 ◇歴史に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇芸術学に関する科目 ◇人類学に関する科目 ◇外国語に関する科目 </td> <td data-bbox="983 647 1361 902"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群（宗教学一般に関する科目）】（8単位以上） ○宗教思想に関する科目 ○宗教史に関する科目 ○宗教実践に関する科目 【B群（個別宗教に関する科目）】（8単位以上） ○神道に関する科目 ○仏教に関する科目 ○キリスト教に関する科目 ○他の宗教に関する科目	左のA群の区分のうちから2区分以上にわたること 左のB群の区分のうちから2区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）		◇哲学・倫理学に関する科目 ◇歴史に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇芸術学に関する科目 ◇人類学に関する科目 ◇外国語に関する科目		文学
専門科目（40単位以上）											
【A群（宗教学一般に関する科目）】（8単位以上） ○宗教思想に関する科目 ○宗教史に関する科目 ○宗教実践に関する科目 【B群（個別宗教に関する科目）】（8単位以上） ○神道に関する科目 ○仏教に関する科目 ○キリスト教に関する科目 ○他の宗教に関する科目	左のA群の区分のうちから2区分以上にわたること 左のB群の区分のうちから2区分以上にわたること										
関連科目（4単位以上）											
◇哲学・倫理学に関する科目 ◇歴史に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇芸術学に関する科目 ◇人類学に関する科目 ◇外国語に関する科目											

■専門科目の例■

【A群（宗教学一般に関する科目）】

- 宗教思想に関する科目
宗教学概論，宗教哲学，比較宗教学，神秘主義研究，宗教の人間観，宗教的世界観，宗教と倫理など
- 宗教史に関する科目
宗教史概説，日本宗教史，世界宗教史，近代と宗教，宗教史から見た「現代」など
- 宗教実践に関する科目
宗教社会学，宗教人類学，布教・教化論，宗教福祉学，宗教と倫理，宗教と政治など

【B群（個別宗教に関する科目）】

- 神道に関する科目
神道神学，神道史，祭祀研究，教派神道研究，神社神道史，延喜式，神道古典，神道教化など
- 仏教に関する科目
仏教学，仏教史，仏教伝道論，仏典研究など
- キリスト教に関する科目
組織神学，聖書学，教会史，牧会学，キリスト教概論，キリスト教の人間学，キリスト教の世界観，聖書と女性観など
- 他の宗教に関する科目
イスラム研究，新宗教研究，インドの宗教，古代メソポタミアの宗教，儒教研究，古代中国の宗教など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

11	教育学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="368 224 1362 293">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 293 986 472"> <ul style="list-style-type: none"> ○教育学・教育心理学に関する科目 ○教科教育に関する科目 ○幼児教育・保育に関する科目 ○特殊教育に関する科目 ○養護教育に関する科目 </td> <td data-bbox="986 293 1362 472">左の区分のうちから2区分以上にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="368 472 1362 528">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 528 986 815"> <ul style="list-style-type: none"> ◇思想・哲学に関する科目 ◇歴史・文化に関する科目 ◇社会に関する科目 ◇法律・行政・経営に関する科目 ◇情報科学に関する科目 ◇医療に関する科目 ◇福祉に関する科目 ◇芸術に関する科目 ◇保健体育に関する科目 </td> <td data-bbox="986 528 1362 815"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		<ul style="list-style-type: none"> ○教育学・教育心理学に関する科目 ○教科教育に関する科目 ○幼児教育・保育に関する科目 ○特殊教育に関する科目 ○養護教育に関する科目 	左の区分のうちから2区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）		<ul style="list-style-type: none"> ◇思想・哲学に関する科目 ◇歴史・文化に関する科目 ◇社会に関する科目 ◇法律・行政・経営に関する科目 ◇情報科学に関する科目 ◇医療に関する科目 ◇福祉に関する科目 ◇芸術に関する科目 ◇保健体育に関する科目 		教育学
専門科目（40単位以上）											
<ul style="list-style-type: none"> ○教育学・教育心理学に関する科目 ○教科教育に関する科目 ○幼児教育・保育に関する科目 ○特殊教育に関する科目 ○養護教育に関する科目 	左の区分のうちから2区分以上にわたること										
関連科目（4単位以上）											
<ul style="list-style-type: none"> ◇思想・哲学に関する科目 ◇歴史・文化に関する科目 ◇社会に関する科目 ◇法律・行政・経営に関する科目 ◇情報科学に関する科目 ◇医療に関する科目 ◇福祉に関する科目 ◇芸術に関する科目 ◇保健体育に関する科目 											

■専門科目の例■

- 教育学・教育心理学に関する科目
教育原理，教育哲学，教育史，教育内容論，教育方法論，教育工学，生徒指導，教育社会学，教育調査法，教育行政学，教育法規，社会教育学，図書館学，生涯学習論，教育心理学，学習心理学，発達心理学，教育実習，道德教育の研究，特別活動の研究など
- 教科教育に関する科目
「各科の」教育法，「各科の」教材研究など
- 幼児教育・保育に関する科目
幼児教育学，幼児教育史，保育内容総論，保育内容研究，幼児教育課程論，保育制度論，乳幼児心理学など
- 特殊教育に関する科目
特殊教育概論，障害児教育論，障害児教育史，特殊教育制度論，障害児教育課程論，精神薄弱児指導法，障害児心理学，医学リハビリテーション，障害者福祉論など
- 養護教育に関する科目
養護教育概説，健康教育論，安全・管理教育など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野								
12	神学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 235 1364 291">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 291 981 582"> 【A群（宗教学一般に関する科目）】（8単位以上） ○宗教思想に関する科目 ○宗教史に関する科目 ○宗教実践に関する科目 【B群（個別宗教に関する科目）】 ○神道に関する科目 ○仏教に関する科目 ○キリスト教に関する科目（24単位以上） ○他の宗教に関する科目 </td> <td data-bbox="981 291 1364 582"> 左のA群の区分のうちから2区分以上にわたること 左のB群の区分のうちから「キリスト教に関する科目」の区分を含み2区分以上にわたること </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 582 1364 638">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 638 981 904"> ◇哲学・倫理学に関する科目 ◇歴史に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇芸術学に関する科目 ◇人類学に関する科目 ◇外国語に関する科目 </td> <td data-bbox="981 638 1364 904"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群（宗教学一般に関する科目）】（8単位以上） ○宗教思想に関する科目 ○宗教史に関する科目 ○宗教実践に関する科目 【B群（個別宗教に関する科目）】 ○神道に関する科目 ○仏教に関する科目 ○キリスト教に関する科目（24単位以上） ○他の宗教に関する科目	左のA群の区分のうちから2区分以上にわたること 左のB群の区分のうちから「キリスト教に関する科目」の区分を含み2区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）		◇哲学・倫理学に関する科目 ◇歴史に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇芸術学に関する科目 ◇人類学に関する科目 ◇外国語に関する科目		神学
専門科目（40単位以上）											
【A群（宗教学一般に関する科目）】（8単位以上） ○宗教思想に関する科目 ○宗教史に関する科目 ○宗教実践に関する科目 【B群（個別宗教に関する科目）】 ○神道に関する科目 ○仏教に関する科目 ○キリスト教に関する科目（24単位以上） ○他の宗教に関する科目	左のA群の区分のうちから2区分以上にわたること 左のB群の区分のうちから「キリスト教に関する科目」の区分を含み2区分以上にわたること										
関連科目（4単位以上）											
◇哲学・倫理学に関する科目 ◇歴史に関する科目 ◇社会学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇芸術学に関する科目 ◇人類学に関する科目 ◇外国語に関する科目											

■ 専門科目の例 ■

【A群（宗教学一般に関する科目）】

- 宗教思想に関する科目
宗教学概論，宗教哲学，比較宗教学，神秘主義研究，宗教の人間観，宗教的世界観，宗教と倫理など
- 宗教史に関する科目
宗教史概説，日本宗教史，世界宗教史，近代と宗教，宗教史から見た「現代」など
- 宗教実践に関する科目
宗教社会学，宗教人類学，布教・教化論，宗教福祉学，宗教と倫理，宗教と政治など

【B群（個別宗教に関する科目）】

- 神道に関する科目
神道神学，神道史，祭祀研究，教派神道研究，神社神道史，延喜式，神道古典，神道教化など
- 仏教に関する科目
仏教学，仏教史，仏教伝道論，仏典研究など
- キリスト教に関する科目
組織神学，聖書学，教会史，牧会学，キリスト教概論，キリスト教の人間学，キリスト教の世界観，聖書と女性観など
- 他の宗教に関する科目
イスラム研究，新宗教研究，インドの宗教，古代メソポタミアの宗教，儒教研究，古代中国の宗教など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

13	社会学	専門科目（40単位以上）	社会学
		<ul style="list-style-type: none"> ○社会学理論に関する科目（4単位以上） ○社会学研究法に関する科目（4単位以上） ○社会の諸領域に関する科目（20単位以上） 	
		関連科目（4単位以上）	
		<ul style="list-style-type: none"> ◇社会心理学に関する科目 ◇文化人類学に関する科目 ◇社会福祉学に関する科目 ◇法学に関する科目 ◇政治学に関する科目 ◇経済学に関する科目 ◇教育学に関する科目 	

■専門科目の例■

- 社会学理論に関する科目
社会学理論，理論社会学，数理社会学，社会学概論，社会学史，社会思想史，経験社会学，応用社会学，比較社会学，歴史社会学，社会システム論，コミュニケーション論，社会行為論，社会関係・人間関係論，社会集団・組織論，社会構造論，社会意識論，社会変動論，集合行動論，社会運動論など
- 社会学研究法に関する科目
社会学研究法，社会調査法，社会統計学，計量社会学，行動計量学，社会学方法論，社会調査実習，情報処理，マス・コミュニケーション調査法，世論調査法など
- 社会の諸領域に関する科目
家族社会学，地域社会学，都市社会学，農村社会学，生活構造論，産業・労働社会学，政治社会学，経済社会学，文化社会学，知識社会学，宗教社会学，科学・技術社会学，言語社会学，福祉社会学，社会病理学，医療・保健社会学，社会階層・社会移動論，人口学，性・世代論，女性社会学，老年社会学，情報社会論，情報メディア論，マス・コミュニケーション論，新聞学，放送論，国際社会学，人種・民族論，近代化論，現代社会論，現代文化論，消費社会論，余暇論，体育社会学，社会計画・開発論，環境社会学，社会史など

14	社会福祉学	専門科目（40単位以上）	社会学
		<p>【A群（講義科目）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉の基本領域に関する科目（8単位以上） ○社会福祉の方法技術に関する科目（8単位以上） ○社会福祉の諸分野に関する科目（12単位以上） <p>【B群（演習・実習科目）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉演習・実習に関する科目 	
		関連科目（4単位以上）	
		<ul style="list-style-type: none"> ◇医学・保健に関する科目 ◇心理に関する科目 ◇法律に関する科目 ◇社会に関する科目 ◇その他の社会科学に関する科目 	

■専門科目の例■

- 【A群（講義科目）】**
- 社会福祉の基本領域に関する科目
社会福祉学原論，社会福祉概論，社会保障論，社会福祉政策制度論，社会福祉法制，社会福祉行財政論，社会福祉倫理，社会福祉発達史，社会思想論，社会福祉思想論，社会事業学，社会哲学，社会福祉総論，国際社会福祉論など
- 社会福祉の方法技術に関する科目
社会福祉援助技術総論，社会福祉方法原論，社会福祉運営論，介護概論，社会福祉方法各論（ケースワーク，グループワーク，コミュニティ・オーガニゼーション，ソーシャル・アクション），社会福祉調査法，社会福祉運営管理法，社会福祉計画法，障害形態別介護技術，保育理論，養護理論（児童，成人）など
- 社会福祉の諸分野に関する科目
児童福祉論，老人福祉論，障害者福祉論，地域福祉論，家族福祉論，公的扶助論，医療福祉論，労働者福祉論，女性福祉論，司法福祉論，産業福祉論，健康福祉論など
- 【B群（演習・実習科目）】**
- 社会福祉演習・実習に関する科目
社会福祉学実習，社会福祉学演習，家政学実習，社会福祉調査実習，社会福祉援助技術演習，社会福祉援助技術現場実習，介護・技術演習，保育実習など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

15	比較文化	専門科目（32単位以上）	教養又は学芸	
		<input type="radio"/> 比較社会に関する科目 <input type="radio"/> 比較文化に関する科目 <input type="radio"/> 比較思想に関する科目 <input type="radio"/> 文化人類学に関する科目 <input type="radio"/> 文化地理学に関する科目		左の区分のうちから2区分以上にわたること
		関連科目（8単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 地域研究に関する科目 <input type="checkbox"/> 国際関係に関する科目 <input type="checkbox"/> 科学技術論に関する科目		

- 専門科目の例■
- 比較社会に関する科目
比較社会論，比較法，比較政治論，比較体制論，情報社会論，社会心理学，比較教育など
 - 比較文化に関する科目
比較文化論，比較文学論，現代文化論，生活文化論，異文化間コミュニケーション，情報文化論，比較言語論など
 - 比較思想に関する科目
比較思想論，比較社会思想論，比較宗教論など
 - 文化人類学に関する科目
文化人類学，社会人類学，民族学，民俗学など
 - 文化地理学に関する科目
文化地理学，人文地理学，比較地理学など

16	地域研究	専門科目（32単位以上）	教養又は学芸	
		<input type="radio"/> アジアの地域研究に関する科目 <input type="radio"/> 北米の地域研究に関する科目 <input type="radio"/> ヨーロッパの地域研究に関する科目 <input type="radio"/> 中南米の地域研究に関する科目 <input type="radio"/> 中近東の地域研究に関する科目 <input type="radio"/> アフリカの地域研究に関する科目 <input type="radio"/> オセアニアの地域研究に関する科目		<input type="checkbox"/> 少なくとも1つの区分から下記に より20単位以上
		記 <input type="checkbox"/> 各地域の政治・経済に関する科目 <input type="checkbox"/> 各地域の文化・社会に関する科目 <input type="checkbox"/> 各地域の地理に関する科目 <input type="checkbox"/> 各地域の歴史に関する科目 <input type="checkbox"/> 各地域の言語に関する科目		<input type="checkbox"/> 2区分以上にわた り16単位以上
		関連科目（8単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 比較文化に関する科目 <input type="checkbox"/> 国際関係に関する科目 <input type="checkbox"/> 科学技術論に関する科目		

- 専門科目の例■
- 各地域の政治・経済に関する科目
「各地域（各国）」の政治，「各地域（各国）」の外交，「各地域（各国）」経済論，「各地域（各国）」金融論，「各地域（各国）」産業論，「各地域（各国）」の政治と経済など
 - 各地域の文化・社会に関する科目
「各地域（各国）」文化論，「各地域（各国）」の社会，「各地域（各国）」の法律，「各地域（各国）」の社会と文化，「各地域（各国）」女性論，「各地域（各国）」の宗教，「各地域（各国）」言語文化論，「各地域（各国）」の美術，「各地域（各国）」の文化と生活など
 - 各地域の地理に関する科目
「各地域（各国）」の地理，「各地域（各国）」の自然，「各地域（各国）」地誌，「各地域（各国）」の風土など
 - 各地域の歴史に関する科目
「各地域（各国）」の歴史，「各地域（各国）」近現代史，「各地域（各国）」政治史，「各地域（各国）」経済史，「各地域（各国）」社会史，「各地域（各国）」文化史，「各地域（各国）」思想史，「各地域（各国）」女性史など
 - 各地域の言語に関する科目
「各地域（各国）」語，「各地域（各国）」語学など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

17	国際関係	専門科目（32単位以上）	教養又は学芸
		○国際政治に関する科目（8単位以上） ○国際経済に関する科目（4単位以上） ○国際機構に関する科目 ○国際開発に関する科目	
		関連科目（8単位以上）	
		◇比較文化に関する科目 ◇地域研究に関する科目 ◇科学技術論に関する科目	

- 専門科目の例■
- 国際政治に関する科目
国際政治史、外交史、国際政治論、国際法、国際人権論、国際関係論、地域統合論、国際統合論、安全保障論、平和論、国際交流論など
 - 国際経済に関する科目
国際経済論、国際貿易論、国際取引法、国際金融論、国際経営論、経済統合論など
 - 国際機構に関する科目
国際機構論、国際連合論、GATT/WTO論、NGO論など
 - 国際開発に関する科目
国際開発論、経済発展論、国際環境論、多国籍企業論、人口論など

18	科学技術研究	専門科目（40単位以上）	教養又は学芸	
		○科学技術論に関する科目（8単位以上） ○理学に関する科目 ○工学に関する科目 ○医学に関する科目 ○農学に関する科目 ○人文科学に関する科目 ○社会科学に関する科目 ○環境科学に関する科目		左のいずれかの1区分で20単位以上 [左の区分から8単位以上]
		関連科目		
		◇比較文化に関する科目 ◇地域研究に関する科目 ◇国際関係に関する科目		

- 専門科目の例■
- 科学技術論に関する科目
科学論、自然科学概論、科学史（個別科学史を含む）、科学哲学、科学教育、科学社会学、技術史（個別技術史を含む）、技術論、技術教育、科学技術政策、科学技術倫理、科学技術と社会など
 - 理学に関する科目
数学、物理学、地学、化学、生物学、情報科学、個別科学史（数学史、物理学史、化学史、生物学史、地学史など）など
 - 工学に関する科目
工学概論、機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、材料工学、土木工学、建築学、個別技術史（機械工学史、土木工学史、電気技術史、建築学史など）など
 - 医学に関する科目
医学概論、基礎医学、臨床医学、社会医学、歯学、薬学、看護学、栄養学、健康科学、医学史、歯学史、薬学史、看護学史、栄養学史、健康科学史など
 - 農学に関する科目
農学概論、農業生物学、緑地環境科学、農芸化学、林学、林産学、農業工学、農林経済学、畜産学、水産学、獣医学、農学史、農業技術史など
 - 人文科学に関する科目
哲学、史学、文学、心理学など
 - 社会科学に関する科目
法学、政治学、経済学、社会学、教育学、情報論など
 - 環境科学に関する科目
エネルギー論、資源論、自然環境論、公害論、環境政策、環境倫理など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野								
19	社会科学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="387 230 1361 297">専門科目（50単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 297 983 618"> 【A群】 ○社会学に関する科目 ○国際関係に関する科目 ○法学に関する科目 ○政治学に関する科目 ○経済学に関する科目 ○商学に関する科目 ○経営学に関する科目 【B群】（4単位以上） ○社会科学に関する基礎的かつ総合的な科目 </td> <td data-bbox="983 297 1361 618">左のA群の区分のうち4区分についてそれぞれ8単位以上</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="387 618 1361 678">関連科目</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 678 983 790"> ◇比較文化に関する科目 ◇地域研究に関する科目（各地域の言語に関する科目を除く） </td> <td data-bbox="983 678 1361 790"></td> </tr> </table>	専門科目（50単位以上）		【A群】 ○社会学に関する科目 ○国際関係に関する科目 ○法学に関する科目 ○政治学に関する科目 ○経済学に関する科目 ○商学に関する科目 ○経営学に関する科目 【B群】（4単位以上） ○社会科学に関する基礎的かつ総合的な科目	左のA群の区分のうち4区分についてそれぞれ8単位以上	関連科目		◇比較文化に関する科目 ◇地域研究に関する科目（各地域の言語に関する科目を除く）		社会科学
専門科目（50単位以上）											
【A群】 ○社会学に関する科目 ○国際関係に関する科目 ○法学に関する科目 ○政治学に関する科目 ○経済学に関する科目 ○商学に関する科目 ○経営学に関する科目 【B群】（4単位以上） ○社会科学に関する基礎的かつ総合的な科目	左のA群の区分のうち4区分についてそれぞれ8単位以上										
関連科目											
◇比較文化に関する科目 ◇地域研究に関する科目（各地域の言語に関する科目を除く）											

■専門科目の例■

【A群】

- 社会学に関する科目
整理番号13の「社会学」の専門科目の例の科目
- 国際関係に関する科目
整理番号17の「国際関係」の専門科目の例の科目
- 法学に関する科目
整理番号20の「法学」の専門科目の例の科目
- 政治学に関する科目
整理番号21の「政治学」の専門科目の例の科目
- 経済学に関する科目
整理番号22の「経済学」の専門科目の例の科目
- 商学に関する科目
整理番号23の「商学」の専門科目の例の科目
- 経営学に関する科目
整理番号24の「経営学」の専門科目の例の科目

【B群】

- 社会科学に関する基礎的かつ総合的な科目
社会科学方法論，社会科学基礎研究，社会科学基礎演習，社会科学演習，市民社会論など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

20	法学	専門科目（48単位以上）	法学	
		<input type="checkbox"/> 公法学に関する科目（8単位以上） <input type="checkbox"/> 民事法学に関する科目（16単位以上） <input type="checkbox"/> 刑事法学に関する科目（8単位以上） <input type="checkbox"/> 基礎法学に関する科目（4単位以上） <input type="checkbox"/> 国際関係法に関する科目（4単位以上） <input type="checkbox"/> 法学に関する概論的な科目		「憲法」の科目を含むこと
		関連科目		
		<input type="checkbox"/> 政治学に関する科目 <input type="checkbox"/> 経済学に関する科目		

- 専門科目の例■
- 公法学に関する科目
憲法，比較憲法，国法学，行政法，租税法，税法，教育法など
 - 民事法学に関する科目
民法，財産法，家族法，身分法，商法，会社法，保険法，海商法，金融法，民事訴訟法，破産法，会社更正法，倒産法，民事執行法，裁判法，労働法，社会保障法，経済法，産業法，無体財産権法，工業所有権法，著作権法，知的財産権法など
 - 刑事法学に関する科目
刑法，刑事訴訟法，刑事学，刑事政策，犯罪学など
 - 基礎法学に関する科目
比較法，外国法，英米法，イギリス法，アメリカ法，フランス法，ドイツ法，スペイン法，社会主義法，ソビエト法，アジア法，法制史，法史学，日本法制史，西洋法制史，東洋法制史，中国法制史，法思想史，法学史，ローマ法，法哲学，法社会学，法医学など
 - 国際関係法に関する科目
国際法，国際組織法，国際私法，涉外私法，国際取引法，国際民事訴訟法など
 - 法学に関する概論的な科目
法学，法学入門，法律学入門，法学概論，現代社会と法など

21	政治学	専門科目（40単位以上）	政治学	
		<input type="checkbox"/> 政治に関する原理的な科目（8単位以上） <input type="checkbox"/> 政治の思想及び歴史に関する科目（8単位以上） <input type="checkbox"/> 現代の政治の実態に関する科目		左の3区分にわたること
		関連科目（4単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 法学に関する科目 <input type="checkbox"/> 経済学に関する科目 <input type="checkbox"/> 社会学に関する科目		「憲法」「経済原論」「財政学」及び「政治社会学」のいずれかの科目を含むこと

- 専門科目の例■
- 政治に関する原理的な科目
政治学原論，現代政治理論，国際政治学，行政学など
 - 政治の思想及び歴史に関する科目
日本政治思想史，西洋政治思想史，日本政治史，西洋政治史，国際政治史，国際関係史，国際外交史など
 - 現代の政治の実態に関する科目
比較政治論，政治制度論，政治機構論，政治過程論，現代日本政治論，公共政策論，政策科学，地域政治論，地方自治論，国際地域論，国際地域研究など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

22	経済学	専門科目（40単位以上）	経済学	
		○経済理論に関する科目（8単位以上） ○経済史に関する科目（4単位以上） ○経済政策・応用経済学に関する科目（16単位以上） ○統計学に関する科目		
		関連科目（4単位以上）		
		◇商学に関する科目 ◇経営学に関する科目 ◇法学に関する科目 ◇政治学に関する科目 ◇社会学に関する科目		

- 専門科目の例■
- 経済理論に関する科目
経済学通論，経済原論，ミクロ経済学，マクロ経済学，国際経済学，厚生経済学，計量経済学，経済学説史，経済学方法論など
 - 経済史に関する科目
経済史通論，日本経済史，東洋経済史，西洋経済史，経済思想史など
 - 経済政策・応用経済学に関する科目
経済政策，世界経済論，比較体制論，産業組織論，工業経済論，農業経済論，経済開発論，都市経済論，経済立地論，環境経済論，日本経済論，現代技術論，多国籍企業論，財政学，地方財政論，公共経済学，金融論，貨幣論，国際金融論，社会政策，労働経済学，社会保障論，労働運動史，人口問題など
 - 統計学に関する科目
統計学通論，経済数学，数理統計学，経済統計，情報論など

23	商学	専門科目（40単位以上）	商学	
		○商学総論に関する科目 ○金融論に関する科目 ○貿易論に関する科目 ○交通論に関する科目 ○マーケティングに関する科目 ○会計学に関する科目 ○商業史に関する科目		左の区分のうちから3区分以上にわたること
		関連科目（4単位以上）		
		◇経済学に関する科目 ◇経営学に関する科目 ◇法学に関する科目 ◇情報論に関する科目		

- 専門科目の例■
- 商学総論に関する科目
商業経営論，現代流通論，商学概論，商業政策など
 - 金融論に関する科目
銀行論，国際金融論，保険論，信託論，外国為替，証券市場論など
 - 貿易論に関する科目
貿易論，商業英語，各国経済事情など
 - 交通論に関する科目
交通論，海運論，陸運論，空運論，物流論など
 - マーケティングに関する科目
マーケティング論，国際マーケティング論，広告論，商品学，標本調査論，流通情報論など
 - 会計学に関する科目
簿記，会計学，会計監査，税務会計，管理会計，原価計算など
 - 商業史に関する科目
商業史，経営史など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

24	経営学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 224 1364 291">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 291 981 582"> <ul style="list-style-type: none"> ○経営学・経営学史に関する科目 ○企業論に関する科目 ○経営管理論に関する科目 ○人事管理論に関する科目 ○国際経営論に関する科目 ○経営情報論に関する科目 ○経営史に関する科目 ○会計学に関する科目 ○マーケティングに関する科目 </td> <td data-bbox="981 291 1364 582">左の区分のうちから4区分以上にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 582 1364 638">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 638 981 757"> <ul style="list-style-type: none"> ◇経済学に関する科目 ◇商学に関する科目 ◇法学に関する科目 </td> <td data-bbox="981 638 1364 757"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		<ul style="list-style-type: none"> ○経営学・経営学史に関する科目 ○企業論に関する科目 ○経営管理論に関する科目 ○人事管理論に関する科目 ○国際経営論に関する科目 ○経営情報論に関する科目 ○経営史に関する科目 ○会計学に関する科目 ○マーケティングに関する科目 	左の区分のうちから4区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）		<ul style="list-style-type: none"> ◇経済学に関する科目 ◇商学に関する科目 ◇法学に関する科目 		経営学
専門科目（40単位以上）											
<ul style="list-style-type: none"> ○経営学・経営学史に関する科目 ○企業論に関する科目 ○経営管理論に関する科目 ○人事管理論に関する科目 ○国際経営論に関する科目 ○経営情報論に関する科目 ○経営史に関する科目 ○会計学に関する科目 ○マーケティングに関する科目 	左の区分のうちから4区分以上にわたること										
関連科目（4単位以上）											
<ul style="list-style-type: none"> ◇経済学に関する科目 ◇商学に関する科目 ◇法学に関する科目 											

■専門科目の例■

- 経営学・経営学史に関する科目
経営学，経営学総論，経営学史など
- 企業論に関する科目
企業論，企業形態論，株式会社論，中小企業論，公益企業論など
- 経営管理論に関する科目
経営管理論，経営組織論，生産管理論，経営財務論，経営戦略論，経営計画論，経営哲学など
- 人事管理論に関する科目
人事管理論，労務管理論，経営心理学，労使関係論など
- 国際経営論に関する科目
国際経営論，多国籍企業論，国際投資論など
- 経営情報論に関する科目
経営情報論，情報処理論，事務管理論，管理工学など
- 経営史に関する科目
経営史，商業史など
- 会計学に関する科目
簿記，会計学，会計監査，税務会計，管理会計，原価計算など
- マーケティングに関する科目
マーケティング論，国際マーケティング論，広告論，商品学，標本調査論，流通情報論など

25	数学・情報系	<p>専門科目（40単位以上）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;"> <p>【A群（講義・演習科目）】（30単位以上。ただし、以下のいずれかの1区分で20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学に関する科目 ○情報科学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（A群の区分のうち「数学に関する科目」の区分の単位数が20単位未満の場合は4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報科学に関する実験・実習科目 ○実習を伴うプログラミング・情報処理に関する演習科目 </td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>関連科目（4単位以上）</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>◇専攻分野「理学」の他の専攻区分の専門科目 ◇応用理学・基礎工学・人文情報科学に関する科目</p> </td> </tr> </table>	<p>【A群（講義・演習科目）】（30単位以上。ただし、以下のいずれかの1区分で20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学に関する科目 ○情報科学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（A群の区分のうち「数学に関する科目」の区分の単位数が20単位未満の場合は4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報科学に関する実験・実習科目 ○実習を伴うプログラミング・情報処理に関する演習科目 		<p>関連科目（4単位以上）</p>		<p>◇専攻分野「理学」の他の専攻区分の専門科目 ◇応用理学・基礎工学・人文情報科学に関する科目</p>		理学
<p>【A群（講義・演習科目）】（30単位以上。ただし、以下のいずれかの1区分で20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○数学に関する科目 ○情報科学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（A群の区分のうち「数学に関する科目」の区分の単位数が20単位未満の場合は4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報科学に関する実験・実習科目 ○実習を伴うプログラミング・情報処理に関する演習科目 									
<p>関連科目（4単位以上）</p>									
<p>◇専攻分野「理学」の他の専攻区分の専門科目 ◇応用理学・基礎工学・人文情報科学に関する科目</p>									

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

○数学に関する科目

数学基礎論，代数，幾何，位相幾何，代数幾何，リー群論，実・複素解析，関数解析，確率・統計，微分方程式，数値解析，物理数学，組み合わせ論・離散数学，制御理論，計画数学，計算機数学，数学史など

○情報科学に関する科目

情報理論，離散数学，データ構造とアルゴリズム，プログラミング言語，システムソフトウェア，データベース，論理回路，計算機アーキテクチャ，計算機システム，情報システム，数値解析，人工知能など

【B群（実験・実習科目）】

○情報科学に関する実験・実習科目

○実習を伴うプログラミング・情報処理に関する演習科目

26	物理学・地学系	<p>専門科目（40単位以上）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;"> <p>【A群（講義・演習科目）】（30単位以上。ただし、以下の5区分のうち2区分以内から20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理学に関する科目 ○宇宙物理学に関する科目 ○地球惑星物理学に関する科目 ○地質学・鉱物学に関する科目 ○地理学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理学・地学に関する実験・実習（巡検を含む）科目 </td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>関連科目（4単位以上）</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <p>◇専攻分野「理学」の他の専攻区分の専門科目 ◇応用理学・基礎工学に関する科目</p> </td> </tr> </table>	<p>【A群（講義・演習科目）】（30単位以上。ただし、以下の5区分のうち2区分以内から20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理学に関する科目 ○宇宙物理学に関する科目 ○地球惑星物理学に関する科目 ○地質学・鉱物学に関する科目 ○地理学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理学・地学に関する実験・実習（巡検を含む）科目 		<p>関連科目（4単位以上）</p>		<p>◇専攻分野「理学」の他の専攻区分の専門科目 ◇応用理学・基礎工学に関する科目</p>		理学
<p>【A群（講義・演習科目）】（30単位以上。ただし、以下の5区分のうち2区分以内から20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理学に関する科目 ○宇宙物理学に関する科目 ○地球惑星物理学に関する科目 ○地質学・鉱物学に関する科目 ○地理学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理学・地学に関する実験・実習（巡検を含む）科目 									
<p>関連科目（4単位以上）</p>									
<p>◇専攻分野「理学」の他の専攻区分の専門科目 ◇応用理学・基礎工学に関する科目</p>									

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

○物理学に関する科目

物理学概論，力学，電磁気学，熱力学，量子力学，統計力学，原子核物理学，固体物理学，流体物理学，高エネルギー物理学，光学，生物物理，プラズマ物理学，物理数学など

○宇宙物理学に関する科目

天文学概論，位置天文学，天体力学，太陽物理学，恒星物理学，恒星天文学，銀河天文学，宇宙進化論，電波天文学，光学・赤外天文学，高エネルギー天文学など

○地球惑星物理学に関する科目

地球物理学概論，固体地球物理学（地震学，測地学，地球内部物理学を含む），流体地球物理学（気象学，海洋物理学，地球流体力学を含む），宇宙空間・惑星物理学，地球電磁気学，惑星進化学，火山学など

○地質学・鉱物学に関する科目

地質学概論，岩石学，鉱物学，結晶学，惑星物質科学，古生物学，地質調査法，地史学，層序学，地球化学，構造地質学，化学地質学など

○地理学に関する科目

地理学概論，陸水学，自然地域学，地図学，地形学，気候学，地誌学など

【B群（実験・実習科目）】

○物理学・地学に関する実験・実習（巡検を含む）科目

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

27	化学系	専門科目（40単位以上）	理学	
		【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） <input type="radio"/> 物理化学に関する科目 <input type="radio"/> 有機化学に関する科目 <input type="radio"/> 無機化学に関する科目 <input type="radio"/> 生物化学に関する科目 <input type="radio"/> 分析化学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） <input type="radio"/> 化学に関する実験・実習科目		左のA群の区分のうちから4区分以上にわたること
		関連科目（4単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 専攻分野「理学」の他の専攻区分の専門科目 <input type="checkbox"/> 応用理学・基礎工学に関する科目		

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

物理化学に関する科目

物理化学，量子化学，理論化学，化学反応論，化学熱力学，統計熱力学，化学結合論，構造化学，分光化学，物理化学演習など

有機化学に関する科目

有機化学，理論有機化学，有機量子化学，物理有機化学，有機合成化学，高分子化学，構造有機化学，反応有機化学，有機金属化学，有機光化学，天然物有機化学，有機化学演習など

無機化学に関する科目

無機化学，無機合成化学，固体構造化学，錯体化学，放射化学，生物無機化学，触媒化学，無機化学演習など

生物化学に関する科目

生物化学，生化学，分子生物学，生物物理学，酵素化学，生物物理化学，生体高分子学，生物化学演習など

分析化学に関する科目

分析化学，機器分析，地球化学，海洋化学，電気化学，分析化学演習など

【B群（実験・実習科目）】

化学に関する実験・実習科目

28	生物学系	専門科目（40単位以上）	理学	
		【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） <input type="radio"/> 形態・系統・分類学に関する科目 <input type="radio"/> 生態・環境生物学に関する科目 <input type="radio"/> 生理・生化学に関する科目 <input type="radio"/> 遺伝・発生学に関する科目 <input type="radio"/> 細胞・分子生物学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） <input type="radio"/> 生物学に関する実験・実習科目		左のA群の区分のうちから3区分以上にわたること
		関連科目（4単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 専攻分野「理学」の他の専攻区分の専門科目 <input type="checkbox"/> 応用生物学に関する科目		

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

形態・系統・分類学に関する科目

一般生物学（バイオサイエンスを含む），自然史学，動物学，植物学，動物形態学，植物形態学，組織学，解剖学，系統分類学，進化学，生物地理学など

生態・環境生物学に関する科目

生態学，動物生態学，植物生態学，微生物生態学，環境生物学，行動学，生物社会学など

生理・生化学に関する科目

生理学，生化学，生理化学，酵素化学，動物生理学，植物生理学，代謝生理学，内分泌学，光生物学など

遺伝・発生学に関する科目

遺伝学，集団遺伝学，細胞遺伝学，分子遺伝学，発生学，発生生物学，形態形成学，放射線生物学など

細胞・分子生物学に関する科目

細胞学，細胞生物学，分子生物学，生物物理学，免疫学，微生物学，微細構造学など

【B群（実験・実習科目）】

生物学に関する実験・実習科目

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

31	看護学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="392 232 1339 293">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 293 983 584"> 【A群（講義・演習・実験科目）】（16単位以上） <input type="radio"/>基礎看護学に関する科目 <input type="radio"/>母性看護学に関する科目 <input type="radio"/>小児看護学に関する科目 <input type="radio"/>成人看護学に関する科目 <input type="radio"/>老人看護学に関する科目 <input type="radio"/>地域看護学に関する科目 【B群（実習科目）】（16単位以上） <input type="radio"/>看護学に関する実習科目 </td> <td data-bbox="983 293 1339 584">左の区分のうち「基礎看護学に関する科目」「母性看護学に関する科目」「小児看護学に関する科目」及び「成人看護学に関する科目」の区分の科目を含むこと</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="392 584 1339 645">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 645 983 788"> <input type="checkbox"/>医学に関する科目 <input type="checkbox"/>保健学に関する科目 <input type="checkbox"/>社会福祉学に関する科目 <input type="checkbox"/>医療情報科学に関する科目 </td> <td data-bbox="983 645 1339 788"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群（講義・演習・実験科目）】（16単位以上） <input type="radio"/> 基礎看護学に関する科目 <input type="radio"/> 母性看護学に関する科目 <input type="radio"/> 小児看護学に関する科目 <input type="radio"/> 成人看護学に関する科目 <input type="radio"/> 老人看護学に関する科目 <input type="radio"/> 地域看護学に関する科目 【B群（実習科目）】（16単位以上） <input type="radio"/> 看護学に関する実習科目	左の区分のうち「基礎看護学に関する科目」「母性看護学に関する科目」「小児看護学に関する科目」及び「成人看護学に関する科目」の区分の科目を含むこと	関連科目（4単位以上）		<input type="checkbox"/> 医学に関する科目 <input type="checkbox"/> 保健学に関する科目 <input type="checkbox"/> 社会福祉学に関する科目 <input type="checkbox"/> 医療情報科学に関する科目		看護学
専門科目（40単位以上）											
【A群（講義・演習・実験科目）】（16単位以上） <input type="radio"/> 基礎看護学に関する科目 <input type="radio"/> 母性看護学に関する科目 <input type="radio"/> 小児看護学に関する科目 <input type="radio"/> 成人看護学に関する科目 <input type="radio"/> 老人看護学に関する科目 <input type="radio"/> 地域看護学に関する科目 【B群（実習科目）】（16単位以上） <input type="radio"/> 看護学に関する実習科目	左の区分のうち「基礎看護学に関する科目」「母性看護学に関する科目」「小児看護学に関する科目」及び「成人看護学に関する科目」の区分の科目を含むこと										
関連科目（4単位以上）											
<input type="checkbox"/> 医学に関する科目 <input type="checkbox"/> 保健学に関する科目 <input type="checkbox"/> 社会福祉学に関する科目 <input type="checkbox"/> 医療情報科学に関する科目											

■専門科目の例■

【A群（講義・演習・実験科目）】

- 基礎看護学に関する科目
看護学概論，基礎看護技術，臨床看護学総論，看護科学論，看護哲学，看護倫理，看護史，看護制度論，看護管理論，看護教育論，看護研究など
- 母性看護学に関する科目
母性看護学概論，母性臨床看護学，助産学概論，助産診断学，助産技術学，助産業務管理など
- 小児看護学に関する科目
小児看護学概論，小児臨床看護学など
- 成人看護学に関する科目
成人看護学概論，成人臨床看護学など
- 老人看護学に関する科目
老人看護学概論，老人臨床看護学など
- 地域看護学に関する科目
地域看護学・公衆衛生看護学概論，地域看護方法，地区活動論，家族相談援助論，健康教育論，保健指導総論・各論など

【B群（実習科目）】

- 看護学に関する実習科目
基礎看護実習，母性看護学実習，助産学実習，小児看護学実習，成人看護学実習，老人看護学実習，地域看護学実習など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野								
32	検査技術科学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 235 1348 291">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 291 981 593"> 【A群】（36単位以上） ○基礎・臨床医学に関する科目 ○基礎検査学に関する科目 ○臨床検査学に関する科目 ○臨床検査学に関する実習科目 【B群】 ○健康科学に関する科目 ○社会医学に関する科目 ○統計学・情報科学に関する科目 </td> <td data-bbox="981 291 1348 593">左のA群の4区分にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 593 1348 649">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 649 981 761"> ◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇生命科学に関する科目 ◇理工学に関する科目 </td> <td data-bbox="981 649 1348 761"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群】 （36単位以上） ○基礎・臨床医学に関する科目 ○基礎検査学に関する科目 ○臨床検査学に関する科目 ○臨床検査学に関する実習科目 【B群】 ○健康科学に関する科目 ○社会医学に関する科目 ○統計学・情報科学に関する科目	左のA群の4区分にわたること	関連科目（4単位以上）		◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇生命科学に関する科目 ◇理工学に関する科目		保健衛生学
専門科目（40単位以上）											
【A群】 （36単位以上） ○基礎・臨床医学に関する科目 ○基礎検査学に関する科目 ○臨床検査学に関する科目 ○臨床検査学に関する実習科目 【B群】 ○健康科学に関する科目 ○社会医学に関する科目 ○統計学・情報科学に関する科目	左のA群の4区分にわたること										
関連科目（4単位以上）											
◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇生命科学に関する科目 ◇理工学に関する科目											

■専門科目の例■

【A群】

- 基礎・臨床医学に関する科目
医学概論，解剖学，生理学，病理学，生化学，微生物学，医動物学，臨床医学総論など
- 基礎検査学に関する科目
検査管理学，検査機器総論，医用工学概論など
- 臨床検査学に関する科目
臨床検査総論，臨床生理学，臨床化学，臨床血液学，臨床微生物学，臨床免疫学，病理細胞組織学，放射性同位元素検査技術学など
- 臨床検査学に関する実習科目
臨床検査総論実習，臨床生理学実習，臨床化学実習，臨床血液学実習，臨床微生物学実習，臨床免疫学実習，病理細胞組織学実習，放射性同位元素検査技術学実習など

【B群】

- 健康科学に関する科目
栄養学，臨床栄養学，健康管理学，体力科学など
- 社会医学に関する科目
公衆衛生学，医療関係法規，予防医学など
- 統計学・情報科学に関する科目
統計学，情報科学，コンピュータ学など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

33	臨床工学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="368 224 1362 293">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 293 983 557"> <p>【A群】（20単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○臨床工学に関する科目</p> <p>【B群】</p> <p>○基礎・臨床医学に関する科目（8単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○基礎工学に関する科目（8単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○社会医学に関する科目</p> </td> <td data-bbox="983 293 1362 557"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="368 557 1362 618">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="368 618 983 790"> <p>◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目</p> <p>◇工学の基礎となる科目</p> <p>◇工学及び周辺技術等に関する科目</p> <p>◇健康科学に関する科目</p> <p>◇生態・環境生物学に関する科目</p> </td> <td data-bbox="983 618 1362 790"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		<p>【A群】（20単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○臨床工学に関する科目</p> <p>【B群】</p> <p>○基礎・臨床医学に関する科目（8単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○基礎工学に関する科目（8単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○社会医学に関する科目</p>		関連科目（4単位以上）		<p>◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目</p> <p>◇工学の基礎となる科目</p> <p>◇工学及び周辺技術等に関する科目</p> <p>◇健康科学に関する科目</p> <p>◇生態・環境生物学に関する科目</p>		保健衛生学
専門科目（40単位以上）											
<p>【A群】（20単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○臨床工学に関する科目</p> <p>【B群】</p> <p>○基礎・臨床医学に関する科目（8単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○基礎工学に関する科目（8単位以上，実習科目を含むこと）</p> <p>○社会医学に関する科目</p>											
関連科目（4単位以上）											
<p>◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目</p> <p>◇工学の基礎となる科目</p> <p>◇工学及び周辺技術等に関する科目</p> <p>◇健康科学に関する科目</p> <p>◇生態・環境生物学に関する科目</p>											

■専門科目の例■

【A群】

- 臨床工学に関する科目
医用工学概論，医用機器学概論，生体機能代行装置学，医用治療機器学，生体計測装置学，医用機器安全管理学など

【B群】

- 基礎・臨床医学に関する科目
医学概論，分子細胞生物学，解剖学，生理学，病理学，臨床生理学，臨床生化学，臨床免疫学，臨床薬理学，看護学概論，臨床医学総論など
- 基礎工学に関する科目
応用数学，システム工学，情報処理工学，電気工学，電子工学，物性工学，機械工学，材料工学，計測工学，光工学，レーザ工学，画像工学，放射線工学概論など
- 社会医学に関する科目
公衆衛生学，医療関係法規，医療統計学など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野								
34	放射線技術科学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="387 230 1361 291">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 291 981 645"> 【A群】（36単位以上） ○放射線理工学に関する科目 ○放射線医学に関する科目 ○画像医学に関する科目 ○放射線・画像技術学に関する科目 ○放射線管理学に関する科目 ○放射線技術科学に関する実習科目 【B群】 ○理工学に関する科目 ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会医学に関する科目 </td> <td data-bbox="981 291 1361 645">左のA群の区分のうちから「放射線理工学に関する科目」及び「放射線技術科学に関する実習科目」の区分を含み4区分以上にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="387 645 1361 705">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="387 705 981 824"> ◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇健康科学に関する科目 ◇情報科学に関する科目 </td> <td data-bbox="981 705 1361 824"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群】 （36単位以上） ○放射線理工学に関する科目 ○放射線医学に関する科目 ○画像医学に関する科目 ○放射線・画像技術学に関する科目 ○放射線管理学に関する科目 ○放射線技術科学に関する実習科目 【B群】 ○理工学に関する科目 ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会医学に関する科目	左のA群の区分のうちから「放射線理工学に関する科目」及び「放射線技術科学に関する実習科目」の区分を含み4区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）		◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇健康科学に関する科目 ◇情報科学に関する科目		保健衛生学
専門科目（40単位以上）											
【A群】 （36単位以上） ○放射線理工学に関する科目 ○放射線医学に関する科目 ○画像医学に関する科目 ○放射線・画像技術学に関する科目 ○放射線管理学に関する科目 ○放射線技術科学に関する実習科目 【B群】 ○理工学に関する科目 ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会医学に関する科目	左のA群の区分のうちから「放射線理工学に関する科目」及び「放射線技術科学に関する実習科目」の区分を含み4区分以上にわたること										
関連科目（4単位以上）											
◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇健康科学に関する科目 ◇情報科学に関する科目											

■専門科目の例■

【A群】

- 放射線理工学に関する科目
放射線物理学，原子物理学，放射化学，放射線機器工学，放射線感光工学，放射線発生工学，放射線機器管理学など
- 放射線医学に関する科目
放射線医学，画像医学，画像解剖学，核医学，放射性薬品学，放射線治療学，放射線生物学，放射線遺伝学など
- 画像医学に関する科目
画像工学，放射線写真学，画像情報学，画像機器工学，画像センサー学など
- 放射線・画像技術学に関する科目
放射線計測学，放射線画像技術学，医用画像技術学，核医学技術学，放射線治療技術学，温熱治療技術学など
- 放射線管理学に関する科目
放射線管理学，放射線衛生学，放射線関係法規，放射線施設設計学，放射線廃棄物処理学，放射線量評価学など
- 放射線技術科学に関する実習科目
放射化学実習，放射線機器工学実習，放射線写真学実習，放射線画像技術学実習，放射線計測学実習，核医学技術学実習，放射線治療技術学実習，放射線管理学実習，画像機器工学実習，画像工学実習，画像センサー学実習，医用画像技術学実習など

【B群】

- 理工学に関する科目
応用数学，電気工学，電子工学，自動制御工学，システム制御工学，医用物理学，量子力学，医用分析機器学，医用材料学など
- 基礎・臨床医学に関する科目
医学概論，臨床医学概論，解剖学，生理学，生化学，病理学，薬理学，臨床化学，臨床検査学，看護学，臨床免疫学，救急医学など
- 社会医学に関する科目
衛生学，公衆衛生学，医療システム学，環境科学，国際医療協力学など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

35	理学療法学	<p>専門科目（40単位以上）</p> <table border="1" data-bbox="391 291 1364 728"> <tr> <td data-bbox="391 291 981 728"> <p>【A群（理学療法学に関する科目）】（36単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・研究理学療法学に関する科目 ○心身機能診断学に関する科目 ○臨床理学療法学に関する科目 ○物理療法学に関する科目 ○日常生活活動学に関する科目 ○理学療法学に関する臨床実習科目 <p>【B群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業療法学に関する科目（整理番号36の「作業療法学」のA群に区分される科目） <p>【C群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目 ○健康科学に関する科目 </td> <td data-bbox="981 291 1364 728"> <p>左のA群の区分のうち「基礎・研究理学療法学に関する科目」及び「理学療法学に関する臨床実習科目」の区分を含み5区分以上にわたること</p> </td> </tr> </table> <p>関連科目（4単位以上）</p> <table border="1" data-bbox="391 784 1364 907"> <tr> <td data-bbox="391 784 981 907"> <ul style="list-style-type: none"> ◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇人間発達・臨床心理学に関する科目 ◇統計学・情報科学に関する科目 </td> <td data-bbox="981 784 1364 907"></td> </tr> </table>	<p>【A群（理学療法学に関する科目）】（36単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・研究理学療法学に関する科目 ○心身機能診断学に関する科目 ○臨床理学療法学に関する科目 ○物理療法学に関する科目 ○日常生活活動学に関する科目 ○理学療法学に関する臨床実習科目 <p>【B群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業療法学に関する科目（整理番号36の「作業療法学」のA群に区分される科目） <p>【C群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目 ○健康科学に関する科目 	<p>左のA群の区分のうち「基礎・研究理学療法学に関する科目」及び「理学療法学に関する臨床実習科目」の区分を含み5区分以上にわたること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇人間発達・臨床心理学に関する科目 ◇統計学・情報科学に関する科目 		保健衛生学
<p>【A群（理学療法学に関する科目）】（36単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・研究理学療法学に関する科目 ○心身機能診断学に関する科目 ○臨床理学療法学に関する科目 ○物理療法学に関する科目 ○日常生活活動学に関する科目 ○理学療法学に関する臨床実習科目 <p>【B群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業療法学に関する科目（整理番号36の「作業療法学」のA群に区分される科目） <p>【C群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目 ○健康科学に関する科目 	<p>左のA群の区分のうち「基礎・研究理学療法学に関する科目」及び「理学療法学に関する臨床実習科目」の区分を含み5区分以上にわたること</p>						
<ul style="list-style-type: none"> ◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇人間発達・臨床心理学に関する科目 ◇統計学・情報科学に関する科目 							

■専門科目の例■

- 【A群（理学療法学に関する科目）】
- 基礎・研究理学療法学に関する科目
理学療法概論，神経生理学，運動生理学，筋生理学，筋生物学，物理学，理学療法学研究方法論・研究課題など
 - 心身機能診断学に関する科目
機能診断学，理学療法評価学，検査学，計測学など
 - 臨床理学療法学に関する科目
骨・関節疾患理学療法学，神経・筋疾患理学療法学，循環疾患理学療法学，内臓疾患理学療法学，中枢神経疾患理学療法学，代謝疾患理学療法学，スポーツ理学療法学，精神疾患理学療法学など
 - 物理療法学に関する科目
物理療法学，力学，電気工学，電気生理学，電磁気学，熱力学など
 - 日常生活活動学に関する科目
日常生活活動学，環境制御学，生活環境論，地域理学療法学，自助具，補装具学，福祉機器など
 - 理学療法学に関する臨床実習科目
臨床見学，臨床評価実習，総合臨床実習，症例検討など
- 【B群】
- 作業療法学に関する科目
整理番号36の「作業療法学」の専門科目の例のA群に区分される科目
- 【C群】
- 基礎・臨床医学に関する科目
医学概論，生理学，解剖学，病理学，運動学，外科学，整形外科学，脳外科学，内科学，神経内科学，小児科学，精神科学，泌尿器科学，眼科学，耳鼻咽喉科学，皮膚科学，循環器科学，公衆衛生科学，リハビリテーション医学，言語治療学，老年医学，救急医学，医用工学，生体力学，生化学，微生物学，組織学など
 - 社会福祉・リハビリテーション論に関する科目
社会福祉論，衛生法規，福祉法規，高齢者福祉，障害者福祉，文化と環境，家族関係学，リハビリテーション概論，ソーシャルワーク論など
 - 健康科学に関する科目
健康科学，健康管理学，生命科学，体力科学，栄養学，レクリエーションと余暇，環境科学など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

36	作業療法学	<p>専門科目（40単位以上）</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;"> <p>【A群（作業療法学に関する科目）】（36単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業療法概論・作業学に関する科目 ○心身機能評価学に関する科目 ○臨床作業療法学に関する科目 ○生活・職能指導に関する科目 ○職場管理・研究に関する科目 ○作業療法学に関する臨床実習科目 <p>【B群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理学療法学に関する科目（整理番号35の「理学療法学」のA群に区分される科目） <p>【C群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目 ○健康科学に関する科目 </td> <td style="width: 40%; vertical-align: top;"> <p>左のA群の区分のうち「作業療法概論・作業学に関する科目」及び「作業療法学に関する臨床実習科目」の区分を含み5区分以上にわたること</p> </td> </tr> </table> <p>関連科目（4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇専攻分野「保健衛生学」の他の専攻区分の専門科目 ◇人間発達・臨床心理学に関する科目 ◇統計学・情報科学に関する科目 	<p>【A群（作業療法学に関する科目）】（36単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業療法概論・作業学に関する科目 ○心身機能評価学に関する科目 ○臨床作業療法学に関する科目 ○生活・職能指導に関する科目 ○職場管理・研究に関する科目 ○作業療法学に関する臨床実習科目 <p>【B群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理学療法学に関する科目（整理番号35の「理学療法学」のA群に区分される科目） <p>【C群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目 ○健康科学に関する科目 	<p>左のA群の区分のうち「作業療法概論・作業学に関する科目」及び「作業療法学に関する臨床実習科目」の区分を含み5区分以上にわたること</p>	保健衛生学
<p>【A群（作業療法学に関する科目）】（36単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業療法概論・作業学に関する科目 ○心身機能評価学に関する科目 ○臨床作業療法学に関する科目 ○生活・職能指導に関する科目 ○職場管理・研究に関する科目 ○作業療法学に関する臨床実習科目 <p>【B群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○理学療法学に関する科目（整理番号35の「理学療法学」のA群に区分される科目） <p>【C群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎・臨床医学に関する科目 ○社会福祉・リハビリテーション論に関する科目 ○健康科学に関する科目 	<p>左のA群の区分のうち「作業療法概論・作業学に関する科目」及び「作業療法学に関する臨床実習科目」の区分を含み5区分以上にわたること</p>				

■専門科目の例■

【A群（作業療法学に関する科目）】

- 作業療法概論・作業学に関する科目
作業療法概論，基礎作業学，基礎作業学技法など
 - 心身機能評価学に関する科目
作業療法評価学，身体障害作業療法評価学，精神障害作業療法評価学，神経障害作業療法評価学，発達障害作業療法評価学，老年期障害作業療法評価学など
 - 臨床作業療法学に関する科目
身体障害作業療法学，精神障害作業療法学，神経障害作業療法学，発達障害作業療法学，老年期障害作業療法学，地域作業療法学など
 - 生活・職能指導に関する科目
日常生活技術学，職業前関連活動，リハビリテーション関連機器，義肢装具学など
 - 職場管理・研究に関する科目
職業倫理学，職場管理学，作業療法研究法など
 - 作業療法学に関する臨床実習科目
臨床見学，臨床評価実習，総合臨床実習など
- 【B群】
- 理学療法学に関する科目
整理番号35の「理学療法学」の専門科目の例のA群に区分される科目
- 【C群】
- 基礎・臨床医学に関する科目
医学概論，生理学，解剖学，病理学，運動学，外科学，整形外科学，脳外科学，内科学，神経内科学，小児科学，精神科学，泌尿器科学，眼科学，耳鼻咽喉科学，皮膚科学，循環器科学，公衆衛生科学，リハビリテーション医科学，言語治療学，老年医学，救急医学，医用工学，生体力学，生化学，微生物学，組織学など
 - 社会福祉・リハビリテーション論に関する科目
社会福祉論，衛生法規，福祉法規，高齢者福祉，障害者福祉，文化と環境，家族関係学，リハビリテーション概論，ソーシャルワーク論など
 - 健康科学に関する科目
健康科学，健康管理学，生命科学，体力科学，栄養学，レクリエーションと余暇，環境科学など

37	鍼灸学	専門科目（40単位以上）	鍼灸学	
		<p>【A群】（36単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経絡経穴学に関する科目 ○鍼灸の理論に関する科目 ○東洋医学に関する概論的な科目 ○鍼灸基礎実習に関する科目 ○鍼灸臨床実習に関する科目 ○基礎・臨床医学に関する科目 <p>【B群】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会福祉・リハビリテーションに関する科目 ○医用工学に関する科目 ○健康科学・スポーツ科学に関する科目 ○心理学に関する科目 		左のA群の6区分にわたること
		関連科目（4単位以上）		
		<ul style="list-style-type: none"> ◇文化人類学に関する科目 ◇東洋思想に関する科目 ◇情報科学に関する科目 		

■専門科目の例■

【A群】

- 経絡経穴学に関する科目
経絡経穴概論，経絡経穴学，経穴学など
- 鍼灸の理論に関する科目
鍼理論，灸理論，鍼灸基礎理論，鍼灸手技理論など
- 東洋医学に関する概論的な科目
東洋医学概論など
- 鍼灸基礎実習に関する科目
鍼実技，灸実技，手技実習（あん摩・マッサージを除く）など
- 鍼灸臨床実習に関する科目
東洋医学臨床論，鍼灸臨床実習，手技臨床実習（あん摩・マッサージを除く），総合臨床実習など
- 基礎・臨床医学に関する科目
医学概論（関係法規を含む），解剖学，生理学，病理学，衛生学・公衆衛生学，臨床医学総論，臨床医学各論，リハビリテーション医学など

【B群】

- 社会福祉・リハビリテーションに関する科目
社会福祉論，高齢者福祉，リハビリテーション概論など
- 医用工学に関する科目
医用工学概論，医用画像工学など
- 健康科学・スポーツ科学に関する科目
健康科学，健康管理学，スポーツ運動学，スポーツ生理学など
- 心理学に関する科目
臨床心理学，老年心理学など

38	栄養学	<p>専門科目（40単位以上）</p> <p>【A群（講義科目）】（28単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄養に関する総合的な科目 ○人体の仕組みに関する科目 ○食物に関する科目 ○臨床栄養に関する科目 ○公衆栄養に関する科目 ○保健衛生に関する科目 ○栄養指導に関する科目 <p>【B群（演習・実験・実習科目）】（6単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄養に関する演習・実験・実習科目 <p>関連科目（4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇食生態学に関する科目 ◇健康科学に関する科目 ◇生命科学に関する科目 ◇環境科学に関する科目 ◇社会福祉に関する科目 ◇人間生活に関する科目 ◇食品流通に関する科目 ◇情報科学に関する科目 	栄養学
----	-----	--	-----

■専門科目の例■

【A群（講義科目）】

- 栄養に関する総合的な科目
栄養学総論，栄養学各論，ライフステージ栄養，栄養学史など
- 人体の仕組みに関する科目
生理学，生化学，解剖学，病理学，免疫学など
- 食物に関する科目
食物学，食品加工学，食品貯蔵学，調理学，食品物性論など
- 臨床栄養に関する科目
臨床栄養学，疾患別食事法，障害者栄養学など
- 公衆栄養に関する科目
公衆栄養学，栄養疫学，栄養調査法など
- 保健衛生に関する科目
公衆衛生学，食品衛生学，微生物学，健康管理論，学校保健など
- 栄養指導に関する科目
栄養指導論，健康教育論，食事計画，給食管理，カウンセリングなど

【B群（演習・実験・実習科目）】

- 栄養に関する演習・実験・実習科目

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

39	機械工学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">専門科目（40単位以上）</td> <td rowspan="2">工学</td> </tr> <tr> <td> 【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○機械材料・材料力学に関する科目 ○機械工作・生産工学に関する科目 ○設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目 ○流体工学に関する科目 ○熱工学に関する科目 ○機械力学・制御に関する科目 ○知能機械学・機械システムに関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○機械工学に関する実験・実習科目 </td> <td>左のA群の区分のうちから4区分以上にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2">関連科目（4単位以上）</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目</td> <td></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		工学	【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○機械材料・材料力学に関する科目 ○機械工作・生産工学に関する科目 ○設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目 ○流体工学に関する科目 ○熱工学に関する科目 ○機械力学・制御に関する科目 ○知能機械学・機械システムに関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○機械工学に関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから4区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）			◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目		
専門科目（40単位以上）		工学											
【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○機械材料・材料力学に関する科目 ○機械工作・生産工学に関する科目 ○設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目 ○流体工学に関する科目 ○熱工学に関する科目 ○機械力学・制御に関する科目 ○知能機械学・機械システムに関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○機械工学に関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから4区分以上にわたること												
関連科目（4単位以上）													
◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目													

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

○機械材料・材料力学に関する科目

材料力学，塑性学，弾性力学，破壊力学，材料弾性学，固体力学，金属組織学概論，強度設計学，機械固体物理など

○機械工作・生産工学に関する科目

機械加工学，加工の力学，精密加工学，特殊加工学，工作機械，加工計測，塑性加工学，生産工学，生産管理工学，CAD/CAM，生産システム学，生産自動化工学，情報化生産工学など

○設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目

機械要素学，機構学，信頼性工学，機械デザイン，設計工学，計算機援用設計，潤滑工学，表面工学，トライボロジー，自動車工学，ビークル工学，宇宙・航空工学，船舶工学など

○流体工学に関する科目

流体力学，流体機械，流れ学，流体力学演習，乱流工学，流体エネルギー変換工学，数値流体力学など

○熱工学に関する科目

熱力学，応用熱力学，伝熱学，内燃機関工学，原子力工学，低密度エネルギー利用工学，数値熱工学，統計熱力学，熱エネルギー変換学，熱と物質の移動など

○機械力学・制御に関する科目

機械力学，振動工学，機械振動学，音響工学，工業力学，自動制御，機械制御，制御工学，デジタル制御，計測工学，機械計測，センサ工学，計測制御機器など

○知能機械学・機械システムに関する科目

メカトロニクス，マイクロメカトロニクス，ロボティクス，ロボット工学，画像工学，人間・機械系，人工知能，生体工学，生物工学，医用工学，バイオメカニクス，情報工学，システム工学，人間工学，認知工学，知識工学，知能工学など

【B群（実験・実習科目）】

○機械工学に関する実験・実習科目

材料力学実験，機械加工学実験，設計工学実験，流体工学実験，熱工学実験，機械力学実験，ロボット工学実験など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

40	電気電子工学	専門科目（40単位以上） 【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○電気電子工学の基礎となる科目（4単位以上） ○電気工学に関する科目 ○電子工学に関する科目 ○通信・情報工学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○電気電子工学に関する実験・実習科目 関連科目（4単位以上） ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目	工学
----	--------	---	----

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

- 電気電子工学の基礎となる科目
電磁気学，回路網学，グラフ理論，電気回路，電子回路，電気計測，電子計測，通信計測など
- 電気工学に関する科目
電力発生工学，エネルギー工学，発電工学，原子工学，電力系統工学，送配電工学，電気法規及び施設管理，電力応用工学，電気鉄道，照明工学，高電圧工学，プラズマ工学，放電工学，絶縁設計工学，電磁エネルギー変換，電気機器学，電気機器設計法，電力制御機器工学，パワーエレクトロニクス，制御工学など
- 電子工学に関する科目
固体電子工学，電子物性，電子材料プロセス工学，半導体工学，誘電体工学，磁性体工学，電気材料，アナログ電子回路，デジタル電子回路，パルス回路，計算機回路工学，論理回路，スイッチング回路，半導体デバイス，集積回路，電子デバイス工学，真空電子工学，電子部品・材料，センサー工学，光電子デバイス，集積デバイス，集積回路設計，量子電子工学，光波電子工学，光伝送工学，光回路工学，マイクロ波工学，光通信工学，電子通信機器設計法，応用機器工学，照明工学など
- 通信・情報工学に関する科目
音響工学，信号処理論，情報伝送工学，通信工学，電磁気応用工学，電磁波工学，応用電磁波工学，マイクロ波工学，レーザ工学，通信理論，情報通信工学，通信基礎論，信号処理，情報基礎論，画像工学，データ通信工学，通信伝送工学，通信方式，伝送システム工学，トラヒック理論，通信交換工学，通信網工学，電気通信事業法，通信法則，応用通信工学，電子通信機器設計法，通信機器，オートマトン，計算機アーキテクチャ，ソフトウェア工学，計算機プログラミング，電子計算機，オペレーティングシステム，計算機言語，コンパイラ設計論，データ構造，メモリー工学，データベース工学，計算機システム，情報数理，情報認識，組合せ，アルゴリズム理論，情報理論，データ通信，人工知能，応用情報工学，生体情報工学，システム制御工学，数理計画法，情報システム理論，システム工学，システム数理工学，情報システム工学など

【B群（実験・実習科目）】

- 電気電子工学に関する実験・実習科目

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野								
41	情報工学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 235 1364 291">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 291 981 526"> 【A群（講義科目）】（30単位以上） ○情報工学基礎理論に関する科目（4単位以上） ○計算機システムに関する科目（6単位以上） ○情報処理に関する科目（6単位以上） ○情報に関連する科目 【B群（演習・実験・実習科目）】（6単位以上） ○情報工学に関する演習・実験・実習科目 </td> <td data-bbox="981 291 1364 526"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 526 1364 582">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 582 981 672"> ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目 </td> <td data-bbox="981 582 1364 672"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群（講義科目）】（30単位以上） ○情報工学基礎理論に関する科目（4単位以上） ○計算機システムに関する科目（6単位以上） ○情報処理に関する科目（6単位以上） ○情報に関連する科目 【B群（演習・実験・実習科目）】（6単位以上） ○情報工学に関する演習・実験・実習科目		関連科目（4単位以上）		◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目		工学
専門科目（40単位以上）											
【A群（講義科目）】（30単位以上） ○情報工学基礎理論に関する科目（4単位以上） ○計算機システムに関する科目（6単位以上） ○情報処理に関する科目（6単位以上） ○情報に関連する科目 【B群（演習・実験・実習科目）】（6単位以上） ○情報工学に関する演習・実験・実習科目											
関連科目（4単位以上）											
◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目											

■専門科目の例■

【A群（講義科目）】

○情報工学基礎理論に関する科目

データ構造，言語理論とオートマトン，アルゴリズム，計算理論，符号理論，スイッチング回路理論，信号処理理論，論理学など

○計算機システムに関する科目

プログラミング，プログラム言語，コンパイラ，オペレーティングシステム，デジタル回路，計算機構成，計算機アーキテクチャ，ネットワーク，ソフトウェア工学，データベースシステム，性能評価など

○情報処理に関する科目

数値解析，人工知能，知識工学，エキスパートシステム，自然言語処理，音声・画像・図形処理，パターン認識，シミュレーション，通信処理（プロトコル），ヒューマンインターフェースなど

○情報に関連する科目

集積回路，システム制御理論，通信網，離散数学（グラフ理論，組合せ論），計画数理（OR，待行列）など

【B群（演習・実験・実習科目）】

○情報工学に関する演習・実験・実習科目

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野								
42	応用化学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 235 1332 291">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 302 981 705"> <p>【A-1群（講義・演習科目）】（20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理化学に関する科目 ○無機化学に関する科目 ○有機化学に関する科目 ○分析化学に関する科目 ○生物化学に関する科目 ○化学工学に関する科目 <p>【A-2群（講義・演習科目）】（10単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工業化学に関する科目 ○化学プロセスに関する科目 ○材料化学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（6単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○応用化学に関する実験・実習科目 </td> <td data-bbox="981 302 1332 705"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 705 1332 761">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 772 981 840"> <ul style="list-style-type: none"> ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目 </td> <td data-bbox="981 772 1332 840"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		<p>【A-1群（講義・演習科目）】（20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理化学に関する科目 ○無機化学に関する科目 ○有機化学に関する科目 ○分析化学に関する科目 ○生物化学に関する科目 ○化学工学に関する科目 <p>【A-2群（講義・演習科目）】（10単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工業化学に関する科目 ○化学プロセスに関する科目 ○材料化学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（6単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○応用化学に関する実験・実習科目 		関連科目（4単位以上）		<ul style="list-style-type: none"> ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目 		工学
専門科目（40単位以上）											
<p>【A-1群（講義・演習科目）】（20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○物理化学に関する科目 ○無機化学に関する科目 ○有機化学に関する科目 ○分析化学に関する科目 ○生物化学に関する科目 ○化学工学に関する科目 <p>【A-2群（講義・演習科目）】（10単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工業化学に関する科目 ○化学プロセスに関する科目 ○材料化学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（6単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○応用化学に関する実験・実習科目 											
関連科目（4単位以上）											
<ul style="list-style-type: none"> ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目 											

■専門科目の例■

【A-1群（講義・演習科目）】

- 物理化学に関する科目
物理化学，量子化学，反応速度論，化学熱力学，統計熱力学，化学結合論，化学反応論，物理化学演習など
- 無機化学に関する科目
無機化学，無機合成化学，固体構造化学，錯体化学，無機化学演習など
- 有機化学に関する科目
有機化学，応用有機化学，理論有機化学，有機量子化学，物理有機化学，有機合成化学，構造有機化学，反応有機化学，有機金属化学，有機光化学，天然物有機化学，有機立体化学，有機化学演習など
- 分析化学に関する科目
分析化学，機器分析，組成分析学，分析化学演習など
- 生物化学に関する科目
生物化学，生化学，工業生物化学，応用生物化学，分子生物学，酵素化学，生物物理化学，生体高分子学，生体物質化学，生物化学演習など
- 化学工学に関する科目
化学工学，反応工学，化学工学量論，単位操作，拡散単位操作，機械的単位操作，反応装置工学，物質移動論，分離工学，粉体工学，化学工学演習など

【A-2群（講義・演習科目）】

- 工業化学に関する科目
工業物理化学，無機工業化学，有機工業化学，工業分析化学，高分子工業化学，化学工業論など
- 化学プロセスに関する科目
化学プロセス工学，触媒化学，触媒反応工学，電気化学，資源エネルギー化学，資源化学，エネルギー工学，石炭化学，石油化学，炭化水素化学，燃料化学，生物化学工学，生物工学，応用微生物工学，醱酵工学，環境化学，環境化学工学など
- 材料化学に関する科目
材料化学，材料科学，基礎材料科学，新素材論，機能性材料，複合材料，材料強度学，金属化学，無機材料化学，無機固体化学，セラミックス，有機材料化学，有機機能材料，高分子化学，高分子材料化学，高分子工学，繊維工学，生物機能材料など

【B群（実験・実習科目）】

- 応用化学に関する実験・実習科目
物理化学実験，無機化学実験，有機化学実験，分析化学実験，機器分析実験，生物化学実験，化学工学実験など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

43	生物工学	<p>専門科目（40単位以上）</p> <p>【A-1群（講義・演習科目）】（20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生物学に関する科目 ○化学に関する科目 ○生化学に関する科目 ○生物物理学に関する科目 ○化学工学に関する科目 <p>【A-2群（講義・演習科目）】（10単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生物工学に関する基本的科目 ○生物工学の応用に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（6単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生物工学に関する実験・実習科目 <p>関連科目（4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目 	工学
----	------	---	----

■専門科目の例■

【A-1群（講義・演習科目）】

- 生物学に関する科目
生物学, 生物学概論, 分子生物学, 遺伝子工学, 微生物学, 動物学, 植物学, 水産学, 生理学, 生態学, 免疫学, 発生学, 遺伝学, 細胞生物学, 神経科学など
- 化学に関する科目
化学, 化学概論, 物理化学, 無機化学, 有機化学, 分析化学, 高分子化学, 生物物理化学, 材料化学, 生体高分子学, 食品化学など
- 生化学に関する科目
生化学, 生物化学, 生化学概論, 生物分析化学, 生物有機化学, 薬理学, 代謝生化学, 細胞生化学, 蛋白質工学, 糖質工学, 酵素学, 酵素化学など
- 生物物理学に関する科目
生物物理学など
- 化学工学に関する科目
化学工学, 化学工学概論, 移動速度論, 移動現象論, 物質移動論, 反応工学, プロセス工学, 化学システム工学, 単位操作, 分離工学など

【A-2群（講義・演習科目）】

- 生物工学に関する基本的科目
生物工学, 生物化学工学, 生物反応工学, 生物生産工学, 生物分離工学, 細胞工学, 発酵工学, 応用微生物学, 酵素工学, 培養工学, 植物工学など
- 生物工学の応用に関する科目
食品工学, 環境工学, 衛生工学, 医用工学, 安全工学, 生物エネルギー工学など

【B群（実験・実習科目）】

- 生物工学に関する実験・実習科目
生物工学実験, 生物学実験, 化学実験, 生化学実験, 生物物理学実験, 化学工学実験など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

44	材料工学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">専門科目（40単位以上）</td> <td rowspan="2">工学</td> </tr> <tr> <td> 【A-1群（講義・演習科目）】（26単位以上） ○材料物性に関する科目 ○材料化学に関する科目 ○材料組織に関する科目 ○材料強度に関する科目 ○材料プロセスに関する科目 【A-2群（講義・演習科目）】（4単位以上） ○金属材料に関する科目 ○無機材料に関する科目 ○有機材料に関する科目 ○複合材料に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○材料工学に関する実験・実習科目 </td> <td> 左のA-1群の5区分にわたること 左のA-2群の区分のうちから2区分以上にわたること </td> </tr> <tr> <td colspan="2">関連科目（4単位以上）</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目</td> <td></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		工学	【A-1群（講義・演習科目）】 （26単位以上） ○材料物性に関する科目 ○材料化学に関する科目 ○材料組織に関する科目 ○材料強度に関する科目 ○材料プロセスに関する科目 【A-2群（講義・演習科目）】 （4単位以上） ○金属材料に関する科目 ○無機材料に関する科目 ○有機材料に関する科目 ○複合材料に関する科目 【B群（実験・実習科目）】 （6単位以上） ○材料工学に関する実験・実習科目	左のA-1群の5区分にわたること 左のA-2群の区分のうちから2区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）			◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目		
専門科目（40単位以上）		工学											
【A-1群（講義・演習科目）】 （26単位以上） ○材料物性に関する科目 ○材料化学に関する科目 ○材料組織に関する科目 ○材料強度に関する科目 ○材料プロセスに関する科目 【A-2群（講義・演習科目）】 （4単位以上） ○金属材料に関する科目 ○無機材料に関する科目 ○有機材料に関する科目 ○複合材料に関する科目 【B群（実験・実習科目）】 （6単位以上） ○材料工学に関する実験・実習科目	左のA-1群の5区分にわたること 左のA-2群の区分のうちから2区分以上にわたること												
関連科目（4単位以上）													
◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目													

■専門科目の例■

【A-1群（講義・演習科目）】

- 材料物性に関する科目
材料物性，金属物理学，固体物性学，金属電子論，材料電子論，結晶回析学，結晶塑性学，転位論，表面物性，機能材料学，知能材料学，薄膜材料工学，電子材料学，磁性材料学，微粒子工学，センサー材料学など
- 材料化学に関する科目
材料化学，材料物理化学，金属物理化学，金属化学，材料電気化学，金属電気化学，腐食防食学，材料環境学，製錬物理化学，表面工学，表面物理化学など
- 材料組織に関する科目
材料組織学，金属組織学，金相学，組織制御学，状態図，材料システム工学，材料設計学，材料解析学，材料熱力学，相変態，熱処理工学など
- 材料強度に関する科目
材料強度学，材料強度物性，金属強度学，材料信頼性工学，破壊力学，結晶強度学，弾性及び塑性学など
- 材料プロセスに関する科目
材料加工学，塑性加工学，金属加工学，鑄造工学，溶接工学，凝固加工学，材料接合工学，粉末冶金学，表面処理工学，材料生産工学，素材プロセス工学，鉄冶金学，非鉄冶金学，電気冶金学，金属製造工学，金属反応工学，材料プロセスなど
- 【A-2群（講義・演習科目）】**
- 金属材料に関する科目
金属材料学，鉄鋼材料学，非鉄材料学，構成材料学，特殊金属材料学，原子炉材料学など
- 無機材料に関する科目
無機材料学，セラミックス工学，ガラス工学，セメント材料工学，非晶質材料工学，焼結理論，誘電体材料工学，セラミック原料，エレクトロセラミックスなど
- 有機材料に関する科目
有機材料学，高分子材料学，高分子加工学，高分子化学，有機材料物性，有機材料解析学，有機情報材料，分子機能材料，生体材料など
- 複合材料に関する科目
複合材料学，複合材料物性，分子複合材料，医用材料学など
- 【B群（実験・実習科目）】**
- 材料工学に関する実験・実習科目
材料物性実験，材料化学実験，材料組織実験，材料強度実験，材料加工実験，分析実験など

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

45	土木工学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 224 1364 291">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 291 981 645"> 【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○構造・材料に関する科目 ○水工・環境に関する科目 ○土質・施工に関する科目 ○計画・交通に関する科目 ○都市・景観に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○土木工学に関する実験・実習科目（ただし、上記の「都市・景観に関する科目」の区分の単位数が15単位以上の場合、その区分の演習科目を実験・実習科目に替えることができる） </td> <td data-bbox="981 291 1364 645"></td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="391 645 1364 705">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="391 705 981 792"> ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目 </td> <td data-bbox="981 705 1364 792"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○構造・材料に関する科目 ○水工・環境に関する科目 ○土質・施工に関する科目 ○計画・交通に関する科目 ○都市・景観に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○土木工学に関する実験・実習科目（ただし、上記の「都市・景観に関する科目」の区分の単位数が15単位以上の場合、その区分の演習科目を実験・実習科目に替えることができる）		関連科目（4単位以上）		◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目		工学
専門科目（40単位以上）											
【A群（講義・演習科目）】（30単位以上） ○構造・材料に関する科目 ○水工・環境に関する科目 ○土質・施工に関する科目 ○計画・交通に関する科目 ○都市・景観に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（6単位以上） ○土木工学に関する実験・実習科目（ただし、上記の「都市・景観に関する科目」の区分の単位数が15単位以上の場合、その区分の演習科目を実験・実習科目に替えることができる）											
関連科目（4単位以上）											
◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目											

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

○構造・材料に関する科目

材料力学，構造力学，建設材料学，構造解析，応用振動学，コンクリート工学，鉄筋コンクリート工学，コンクリート構造，鋼構造，橋工学，設計論，耐震工学，設計演習など

○水工・環境に関する科目

水理学，流体力学，河川工学，海岸工学，水文学，水資源工学，環境工学，衛生工学，水処理学，エネルギー計画，防災工学，地球環境工学など

○土質・施工に関する科目

土質力学，動土質力学，基礎工学，地盤工学，岩盤力学，土地地質学，土木施工，トンネル工学，防災工学，土木法規，コンストラクション・マネジメントなど

○計画・交通に関する科目

数理計画理論，公共投資・政策論，交通計画，道路工学，鉄道工学，港湾・空港工学，交通工学，測量学，土木史など

○都市・景観に関する科目

国土計画，地域計画，都市計画，地区計画，都市史，都市交通計画，都市施設保全，都市安全工学，都市環境工学，CADシステム，地図情報処理，景観工学など

【B群（実験・実習科目）】

○土木工学に関する実験・実習科目

46	建築学	<p>専門科目（48単位以上）</p> <p>【A群（講義・演習科目）】（30単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建築構造学に関する科目（8単位以上） ○建築構法・材料・施工に関する科目（4単位以上） ○建築環境工学に関する科目（2単位以上） ○建築計画学に関する科目（4単位以上） ○都市計画学に関する科目 ○建築史・意匠に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（10単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○建築設計・製図に関する科目 ○建築学に関する実験・実習科目 <p>関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目 ◇美術・デザインに関する科目 	工学
----	-----	---	----

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

- 建築構造学に関する科目
構造力学，応用力学，材料力学，構造解析，構造振動論，鉄筋コンクリート構造（RC構造），鉄骨構造（鋼構造），木構造，耐震構造，構造設計，構造計画，基礎地盤工学など
- 建築構法・材料・施工に関する科目
建築構法，建築一般構造，構法計画，建築材料，建築生産，建築施工，建築経済など
- 建築環境工学に関する科目
環境工学概論，環境工学，計画原論，建築環境計画，環境心理，建築設備，空調設備など
- 建築計画学に関する科目
建築計画，インテリア計画，住宅計画，設計計画，建築人間工学，建築安全計画，建築管理保全計画，建築法規など
- 都市計画学に関する科目
地域計画，都市計画，地区計画，住宅地計画，都市解析，都市交通計画，都市施設計画，都市安全工学，都市環境工学など
- 建築史・意匠に関する科目
建築史，住宅史，都市史，建築意匠，建築思潮，建築概論など

【B群（実験・実習科目）】

- 建築設計・製図に関する科目
建築設計製図，建築製図基礎，インテリア設計，構造設計，環境設備設計，都市設計など
- 建築学に関する実験・実習科目

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

47	芸術工学	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="392 232 1339 293">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 293 983 528"> 【A群（講義・演習科目）】（20単位以上） ○生活機器・環境デザインに関する科目 ○画像・音響デザインに関する科目 ○デザインの基礎となる工学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】（10単位以上） ○生活機器・環境デザインに関する実験・実習科目 ○画像・音響デザインに関する実験・実習科目 </td> <td data-bbox="983 293 1339 528">左のA群の区分のうちから「デザインの基礎となる工学に関する科目」の区分を含み2区分以上にわたること</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="392 528 1339 589">関連科目（4単位以上）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 589 983 730"> ◇美術・デザインに関する科目 ◇音楽に関する科目 ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目 </td> <td data-bbox="983 589 1339 730"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		【A群（講義・演習科目）】 （20単位以上） ○生活機器・環境デザインに関する科目 ○画像・音響デザインに関する科目 ○デザインの基礎となる工学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】 （10単位以上） ○生活機器・環境デザインに関する実験・実習科目 ○画像・音響デザインに関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから「デザインの基礎となる工学に関する科目」の区分を含み2区分以上にわたること	関連科目（4単位以上）		◇美術・デザインに関する科目 ◇音楽に関する科目 ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目		芸術工学
専門科目（40単位以上）											
【A群（講義・演習科目）】 （20単位以上） ○生活機器・環境デザインに関する科目 ○画像・音響デザインに関する科目 ○デザインの基礎となる工学に関する科目 【B群（実験・実習科目）】 （10単位以上） ○生活機器・環境デザインに関する実験・実習科目 ○画像・音響デザインに関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから「デザインの基礎となる工学に関する科目」の区分を含み2区分以上にわたること										
関連科目（4単位以上）											
◇美術・デザインに関する科目 ◇音楽に関する科目 ◇工学の基礎となる科目 ◇工学及び周辺技術等に関する科目											

■専門科目の例■

【A群（講義・演習科目）】

- 生活機器・環境デザインに関する科目
工業デザイン概論，生活用具デザイン史，生活用具論，機器設計，製品解析，室内設計，環境設計，建築概論，建築史，建築設計，都市環境計画，環境保全論，都市計画，景観設計，空間デザイン，デザインマネージメント，デザイン方法論など
- 画像・音響デザインに関する科目
グラフィックデザイン概論，映像概論，映像理論，画像概論，画像設計，視覚伝達デザイン，写真学，印刷学，コンピューターグラフィックス，視覚媒体論，視覚デザイン，視覚心理学，音響学概論，音響設計，建築音響学，音響工学，聴覚心理学，視聴覚情報など
- デザインの基礎となる工学に関する科目
造形論，デザイン概論，基礎デザイン，デザイン史，図学，製図，表示方法論，色彩学，形態学，認知工学，人間工学，感性工学，デザイン材料，材料工学，構造力学，機構学，環境論，環境工学，音響理論，信号処理，情報理論，ソフトウェア工学など

【B群（実験・実習科目）】

- 生活機器・環境デザインに関する実験・実習科目
工業デザイン実習，環境デザイン実習，建築設計実習など
- 画像・音響デザインに関する実験・実習科目
画像情報処理実験，音響実験，音響構成実習，グラフィックデザイン実習，視覚デザイン実習など

48	農学	<p>専門科目（40単位以上）</p> <p>【A群（講義・演習科目）】（30単位以上。ただし、以下の区分のうち2区分以内から20単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農学に関する総合的な科目 ○農業生物学に関する科目 ○緑地環境科学に関する科目 ○農芸化学に関する科目 ○林学に関する科目 ○林産学に関する科目 ○農業工学に関する科目 ○農業経済学に関する科目 ○畜産学に関する科目 <p>【B群（実験・実習科目）】（4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農学に関する実験・実習科目（ただし、上記の2区分以内に「農業経済学に関する科目」を含む場合は農業経済学に関する演習科目に替えることができる） <p>関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇水産学に関する科目 ◇獣医学に関する科目 	農学
----	----	---	----

■専門科目の例■

- 【A群（講義・演習科目）】
- 農学に関する総合的な科目
農学概論，生物資源学総論，地球環境科学など
 - 農業生物学に関する科目
農業生物学，栽培学，植物栄養学，肥科学，遺伝学，育種学，植物生態学，植物形態形成学，植物生理学，植物病理学，植物病原細菌学，作物病学，ウイルス学，菌類学，植物保護学，応用昆虫学，昆虫生理学，昆虫病理学，食用作物学，工芸作物学，飼料作物学，蔬菜学，果樹学，花卉園芸学，園芸食品学，施設園芸学，園芸利用学，農作業論，農業気象学，生物測定学，養蚕学など
 - 緑地環境科学に関する科目
緑地学概論，環境科学概論，緑地計画学，緑地設計論，緑化技術論，環境植栽学，環境立地学，緑地植物学，緑地生態学，緑地保全学，緑地管理学，緑地環境工学，庭園学，庭園デザイン学，造園学，造園設計学，造園施設学，都市環境デザイン学，都市計画学，農村計画学，地域計画学，自然公園論，風景計画学，景観学，地域環境論，自然保護論など
 - 農芸化学に関する科目
農芸化学概論，有機化学，生物化学，物理化学，生物物理化学，生物有機化学，分析化学，無機化学，蛋白質化学，酵素学，天然高分子化学，土壌学，土壌保全学，分子生物学，遺伝子工学，微生物学，微生物遺伝学，細胞生理学，醗酵生理学，微生物利用学，栄養化学，栄養生理学，生物資源利用学，食品化学，食品物理学，食品工学，食品製造学，食品保存学，食品衛生学，植物栄養学・肥科学，生理活性物質化学，農薬学，醸造学，環境化学など
 - 林学に関する科目
林学概論，造林学，林木育種学，遺伝学，樹病学，森林立地学，樹木学，森林植物学，森林動物学，野生動物管理論，森林生態学，森林土壌学，森林利用学，森林計測学，森林評価学，森林経理学，測樹学，林政学，林業経済学，林業経営学，林業機械学，林業土工学，砂防工学，山地災害論，測量学，森林土工学，森林資源論，森林流域管理学，森林風景計画，森林風致工学，森林法律，森林情報処理学，森林気象学など
 - 林産学に関する科目
林産学概論，林産学，林産資源利用論，木材学概論，木材組織学，木材構造学，木材保存学，木材成分化学，木材化学，木材物理学，木材力学，木材成分利用学，木材加工学，木材化学，有機化学，生物化学，高分子化学，高分子物性，有機材料学，無機材料学，材料科学，植物生理学，森林化学，パルプ・製紙学，幹材形成化学，植物形態形成学，セルロース科学，セルロース化学，リグニン化学など
 - 農業工学に関する科目
農業工業概論，農業物理学，農業土工学概論，農業機械学，農産機械学，農地工学，農業水利学，農業地水学，農林地質学，生物環境工学，測量学，水理学，水文学，水工学，土質力学，土質工学，地盤工学，コンクリート工学，応用流体力学，応用力学，機械設計，機械力学，制御工学，応用計測学，応用情報工学，応用解析学，農村計画学，土壌物理学，作物環境物理学など
 - 農業経済学に関する科目
農業経済学，農業経営学，農政学，農業法律学，農業史，農学史，比較農業論，地域農業論，国際農業論，農業統計学，農業評価学，農業会計学，農業金融論，農業市場論，農産物市場論，農産物輸送論，農業団体論，農業協同組合論，農村社会学，農村計画学，農業技術論，経済原論，経済学，経済政策，林政学，林業経済学，漁業経済学など

○畜産学に関する科目

畜産学概論, 家畜形態学, 家畜生理学, 家畜繁殖学, 遺伝学, 家畜育種学, 家畜行動学, 家畜管理学, 家畜衛生学, 家畜栄養学, 家畜品種論, 生産飼料学, 実験動物学, 畜産物利用学, 畜産加工学, 産肉生理学, 畜産機械学, 畜産経営学, 畜産製造学, 飼料学, 飼料作物学, 草地学, 国際畜産論, 酪農概論, 酪農経営学, 畜産物流通論など

【B群 (実験・実習科目)】

○農学に関する実験・実習科目

49	水産学	専門科目 (40単位以上)	水産学
		<p>【A群 (講義・演習科目)】 (30単位以上)</p> <p>○水産学に関する総合的な科目</p> <p>○資源管理に関する科目</p> <p>○漁業学に関する科目</p> <p>○水産増養殖学に関する科目</p> <p>○水産化学・水産利用学に関する科目</p> <p>【B群 (実験・実習科目)】 (4単位以上)</p> <p>○水産学に関する実験・実習科目</p>	<p>左のA群の区分のうちから「水産学に関する総合的な科目」の区分を含み3区分以上にわたること</p>
		関連科目	
		◇農学に関する科目	

■専門科目の例■

【A群 (講義・演習科目)】

○水産学に関する総合的な科目

水産学原論, 水産学概論, 水産環境学など

○資源管理に関する科目

水産資源学, 資源解析学, 漁業管理論, 漁業労働論, 水産経済学, 水産経営学, 水産経済史, 水産経済統計学, 漁業制度論, 漁業協同組合論, 水産法学, 海洋国際法など

○漁業学に関する科目

漁業学, 漁業生物学, 漁業情報学, 漁具学, 漁法学, 漁場学, 漁業機械学, 漁船学, 漁船運用学, 海洋学, 海洋計測学, 海洋気象学, 航海学など

○水産増養殖学に関する科目

水産動物学, 水産植物学, 水産増殖学, 水産養殖学, 水族育種学, 水族栄養学, 水族病理学, 水族生態学, 水族生理学, 水質学, 水産土木学, 陸水学, 浮遊生物学, 水圏微生物学など

○水産化学・水産利用学に関する科目

水産化学, 水産利用学, 水産原料学, 水産製造学, 水産加工学, 水産食品学, 食品化学, 食品保蔵学, 食品衛生学, 食品微生物学, 食品工学, 栄養化学, 生物化学, 生化学, 物理化学, 有機化学, 無機化学, 分析化学など

【B群 (実験・実習科目)】

○水産学に関する実験・実習科目

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

50	家政学	<p>専門科目（40単位以上）</p> <p>【A-1群（講義科目）】 ○家政学に関する総合的な科目（6単位以上） 【A-2群（講義科目）】（18単位以上） ○児童学に関する科目 ○食物学に関する科目 ○被服学に関する科目 ○住居学に関する科目 ○生活経営学に関する科目 【B群（演習・実験・実習科目）】（6単位以上） ○家政学に関する演習・実験・実習科目</p> <p>関連科目（4単位以上）</p> <p>◇社会学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇教育学に関する科目 ◇自然科学に関する科目 ◇美学に関する科目 ◇人間工学に関する科目 ◇統計学に関する科目 ◇情報科学に関する科目 ◇家庭科教育に関する科目</p>	家政学
----	-----	---	-----

■専門科目の例■

- 【A-1群（講義科目）】
○家政学に関する総合的な科目
家政学原論，家族・家庭生活論，生活情報論，生活環境論，生活文化論，生活福祉論，生活資源論，生涯発達論など
- 【A-2群（講義科目）】
○児童学に関する科目
保育学，児童教育学，児童心理学，児童発達学，児童文化論，児童生活論，家庭教育論，児童福祉学，発達臨床学，児童保健学，精神保健学など
- 食物学に関する科目
栄養学，栄養生理学，臨床栄養学，食品学，食品加工学，食品貯蔵学，調理学，食事計画論，食生活論，官能検査法など
- 被服学に関する科目
被服材料学，被服設計学，被服構成学，被服生理学，被服環境学，服飾美学，服飾史，服飾意匠学，被服心理学，被服管理学，衣生活論，被服産業論など
- 住居学に関する科目
住生活学，住宅論，住居意匠学，住居計画学，室内意匠論，住居環境学，生活環境学，人間工学，住居管理学，住宅政策論，住居構造学など
- 生活経営学に関する科目
家庭管理学，生活設計論，生活時間論，家事労働論，家族福祉論，家族関係学，家族法，高齢者論，家庭経済学，家計管理論，消費経済論，国民経済論など
- 【B群（演習・実験・実習科目）】
○家政学に関する演習・実験・実習科目

整理番号	専攻区分	専門・関連科目の区分及び修得すべき単位数（62単位以上）	専攻分野
------	------	------------------------------	------

51	音楽	専門科目（40単位以上）	芸術学	
		<input type="radio"/> 作曲に関する科目 <input type="radio"/> 演奏に関する科目 <input type="radio"/> 音楽理論・音楽史に関する科目 <input type="radio"/> 音楽教育に関する科目		左の区分のうちから「演奏に関する科目」の区分を含み3区分以上にわたること
		関連科目（4単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 文化史・文化論に関する科目 <input type="checkbox"/> 哲学に関する科目 <input type="checkbox"/> 民俗学に関する科目 <input type="checkbox"/> 社会学に関する科目 <input type="checkbox"/> 情報科学に関する科目 <input type="checkbox"/> 心理学に関する科目 <input type="checkbox"/> 演劇学に関する科目 <input type="checkbox"/> 経済学・商学・経営学に関する科目 <input type="checkbox"/> 生理学に関する科目		

■専門科目の例■

- 作曲に関する科目
和声学，対位法，作曲法，編曲法，管弦楽法，電子音楽（コンピューター音楽）など
- 演奏に関する科目
ソルフェージュ，独唱，重唱，合唱，指揮法，ピアノ，オルガン，弦楽器，管楽器，打楽器，伴奏法，室内楽，吹奏楽，管弦楽，雅楽，民族楽器，日本の楽器（箏，太鼓等），電子楽器，ジャズなど
- 音楽理論・音楽史に関する科目
音楽美学，音楽通論，楽曲分析，楽式論，西洋音楽史，東洋音楽史，日本音楽史，民族音楽理論，宗教音楽，音声学，楽器学，音楽心理学，ワールドミュージック，ポピュラーミュージックなど
- 音楽教育に関する科目
音楽教育概論，音楽教育法，音楽教育史，音楽教材研究，幼児音楽教育，音楽教育心理学，音楽療法，リトミックなど

52	美術	専門科目（40単位以上）	芸術学	
		<input type="radio"/> 美術制作に関する科目 <input type="radio"/> 美術理論，美術史に関する科目 <input type="radio"/> 美術教育に関する科目		左の3区分にわたること
		関連科目（4単位以上）		
		<input type="checkbox"/> 文化史に関する科目 <input type="checkbox"/> 哲学に関する科目 <input type="checkbox"/> 外国語に関する科目 <input type="checkbox"/> 民族学に関する科目 <input type="checkbox"/> 社会学に関する科目 <input type="checkbox"/> 情報科学に関する科目 <input type="checkbox"/> 心理学に関する科目 <input type="checkbox"/> 言語学に関する科目 <input type="checkbox"/> 演劇学に関する科目 <input type="checkbox"/> 生態学に関する科目		

■専門科目の例■

- 美術制作に関する科目
絵画，彫刻，造形，デザイン，工芸，写真，映像，保存・修復など
- 美術理論，美術史に関する科目
美学，芸術学，西洋美術史，東洋美術史，日本美術史，造形理論など
- 美術教育に関する科目
美術教育論，工芸教育論，美術教育史，美術科教育法，工芸科教育法など

53	体育学	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">専門科目（40単位以上）</td> </tr> <tr> <td style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> ○体育科学に関する科目 ○スポーツ科学に関する科目 ○健康体力科学に関する科目 ○保健体育教育に関する科目 </td> <td style="width: 40%; text-align: center;"> 実技科目 8 単位を含み左の 4 区分にわたること </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">関連科目（4 単位以上）</td> </tr> <tr> <td style="width: 60%;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇教育学に関する科目 ◇医学に関する科目 ◇社会福祉学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇経営学に関する科目 ◇生命科学に関する科目 ◇健康科学に関する科目 ◇動作学に関する科目 ◇情報科学に関する科目 </td> <td style="width: 40%;"></td> </tr> </table>	専門科目（40単位以上）		<ul style="list-style-type: none"> ○体育科学に関する科目 ○スポーツ科学に関する科目 ○健康体力科学に関する科目 ○保健体育教育に関する科目 	実技科目 8 単位を含み左の 4 区分にわたること	関連科目（4 単位以上）		<ul style="list-style-type: none"> ◇教育学に関する科目 ◇医学に関する科目 ◇社会福祉学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇経営学に関する科目 ◇生命科学に関する科目 ◇健康科学に関する科目 ◇動作学に関する科目 ◇情報科学に関する科目 		体育学
専門科目（40単位以上）											
<ul style="list-style-type: none"> ○体育科学に関する科目 ○スポーツ科学に関する科目 ○健康体力科学に関する科目 ○保健体育教育に関する科目 	実技科目 8 単位を含み左の 4 区分にわたること										
関連科目（4 単位以上）											
<ul style="list-style-type: none"> ◇教育学に関する科目 ◇医学に関する科目 ◇社会福祉学に関する科目 ◇心理学に関する科目 ◇経営学に関する科目 ◇生命科学に関する科目 ◇健康科学に関する科目 ◇動作学に関する科目 ◇情報科学に関する科目 											

■専門科目の例■

- 体育科学に関する科目
 体育原論，体育哲学，体育史，体育社会学，体育行財政学，体育心理学，体育経営管理学（体育管理学，体育施設用具論を含む），レジャー・レクリエーション学，特殊体育学，武道論，社会体育，測定評価論，スポーツ産業論，スポーツマーケティング論など
- スポーツ科学に関する科目
 スポーツ運動学，コーチ学，個別スポーツ方法論（実技を含む），スポーツ力学，スポーツ生力学，スポーツ生理学，トレーニング論など
- 健康体力科学に関する科目
 解剖学，生理学，病理学，栄養学，公衆衛生学，環境保健学，体力学，スポーツ医学，運動処方論，救急法実習，テーピング・マッサージ論（実習を含む），発育発達論，スポーツ障害論，健康管理学，救急学，小児保健，精神保健学，学校保健学など
- 保健体育教育に関する科目
 保健科教育学，体育科教育学，特殊体育教育学，教育法学，カウンセリングなど

13

各種手続

1 証明書の交付

(1) 「学位授与証明書」

機構で学位を得たことを証明する書類です。A4判の用紙に以下の事項を記入したものを「学位授与証明書交付願」として、返信用封筒（長形3号に送料分切手貼付*）を添付して、学位審査課に交付請求してください。

①郵便番号 ②住所 ③電話番号 ④氏名（フリガナ）〔英文証明書を請求する場合は、ローマ字表記も記入する。〕 ⑤学位授与年月日 ⑥学位記番号 ⑦学位（専攻分野）の名称 ⑧生年月日 ⑨使用目的 ⑩提出先 ⑪必要部数

(2) 「学位授与申請受理証明書」

機構への学位授与申請が受理されてから合否の判定が出るまでの間に、申請を受理している旨を証明する書類です。A4判の用紙に以下の事項を記入したものを「学位授与申請受理証明書交付願」として、返信用封筒（長形3号に送料分切手貼付*）を添付して、学位審査課に交付請求してください。

①郵便番号 ②住所 ③電話番号 ④氏名（フリガナ） ⑤専攻分野 ⑥専攻区分 ⑦生年月日 ⑧使用目的 ⑨提出先 ⑩必要部数

*請求枚数が4枚までならば、80円切手をはってください。（速達を希望するならば350円）枚数が5枚以上の場合は、機構に照会してください。（送料は平成13年1月現在）

2 機構の刊行物の請求方法

次の資料を御希望の方は、希望資料名、必要部数及び電話番号を書いたメモに返信用封筒（角形2号に、送料分切手貼付**）を添付して学位審査課あて請求してください。

- ①『新しい学士への途－平成13年度版－』（本冊子）（送料270円）
- ②『平成13年度学位授与申請書類』（送料200円）
- ③『科目等履修生制度の開設大学一覧』（送料580円）
- ④『大学評価・学位授与機構認定短期大学・高等専門学校専攻科一覧』（送料390円）

**2部以上請求する場合は機構に照会してください。

3 住所変更届

学位授与申請後に住所を変更した場合は、A4判の用紙に、以下の事項を記入したものを「住所変更届」として届け出てください。

①整理番号*** ②氏名 ③専攻区分 ④（新しい）郵便番号・住所・電話番号

***不明であれば未記入でも可。

4 アンケート調査等のお願い

この制度の改善を図るために、学位授与者を対象としたアンケート調査等を実施することがあります。回答者が特定されるような形で調査結果を公表することはありませんので、御協力ください。

5 照会等について

この制度に関して不明な点があれば、機構に電話照会し確認してください。（問い合わせ専用番号：03-3942-2355）文書による照会の場合も、連絡先電話番号をお知らせください。

大学評価・学位授与機構

管理部学位審査課

〒112-0012 東京都文京区大塚3-29-1

☎ 03-3942-2355 [問い合わせ専用]

<http://www.niad.ac.jp>